
全国医学部長病院長会議 定例記者会見資料

医学生の学力に関するアンケート調査結果

2017年3月16日

医学生の学力に関するアンケート調査結果

全国医学部長病院長会議

医学生の学力に関する検討WG

主査 福島 統

(東京慈恵会医科大学 教育センター長)

医学部定員の増加

	入学定員	増加数	累積増加数	平成19年度からの増加率
平成19年	7625名			
平成20年	7793名	168名	168名	102.2%
平成21年	8486名	693名	861名	111.3%
平成22年	8846名	360名	1221名	116.0%
平成23年	8923名	77名	1298名	117.0%
平成24年	8991名	68名	1366名	117.9%
平成25年	9041名	50名	1416名	118.6%
平成26年	9069名	28名	1444名	118.9%
平成27年	9134名	65名	1509名	119.8%
平成28年	9262名	128名	1637名	121.5%
平成29年	9420名	158名	1795名	123.5%

医学部入学定員と18歳人口の推移

(参考資料)

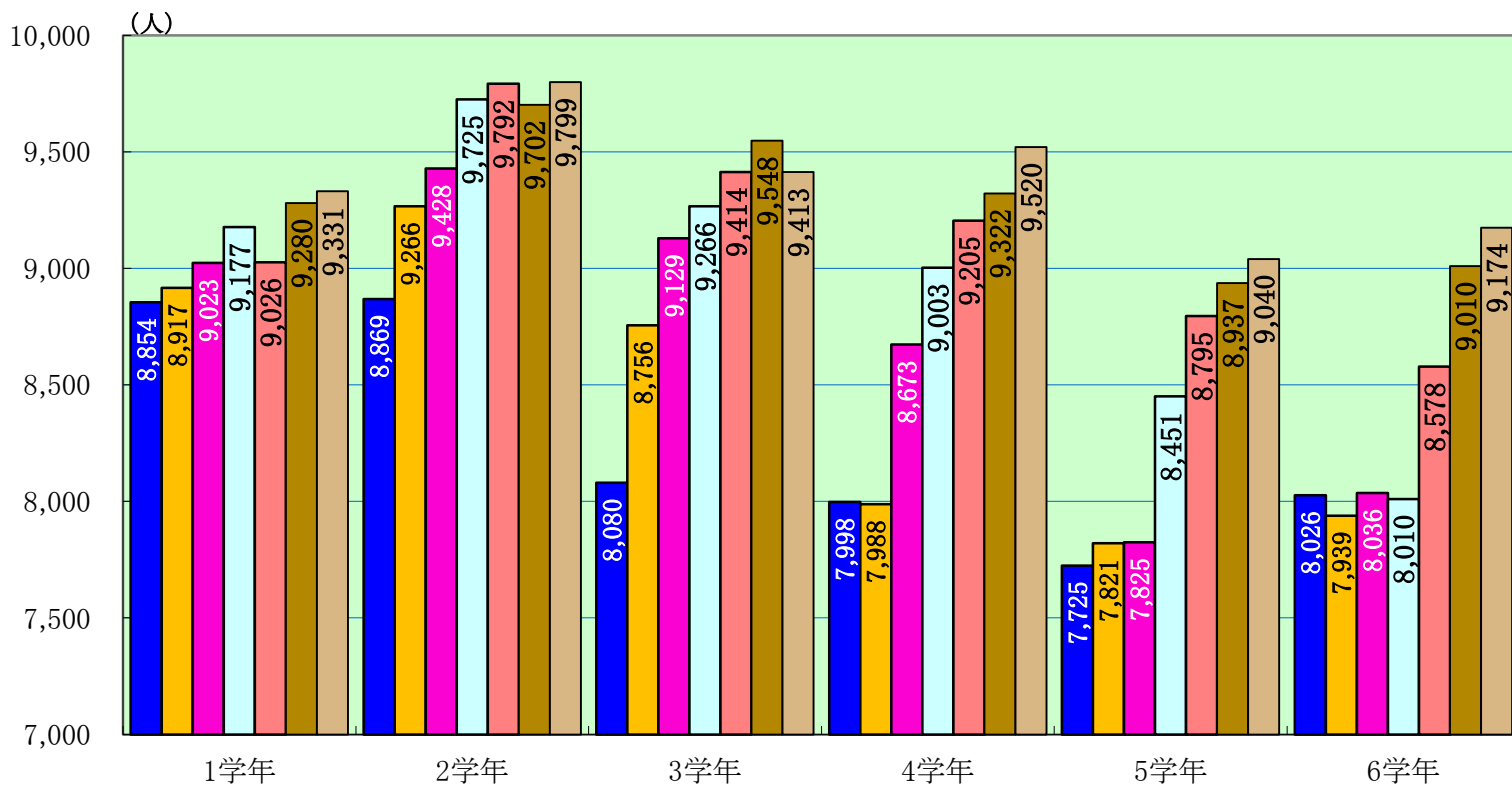
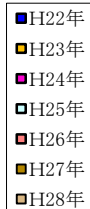
○ 医学部入学定員と18歳人口の推移

	入学定員	18歳人口	18歳人口の何人に1人が入学する	18歳人口千人当たりの入学者
S41年	3,560人	249万人	1/699人	(1.4/1,000人)
S56年 (新設医大設置)	8,280人	161万人	1/194人	(5.1/1,000人)
H19年 (削減時)	7,625人	130万人	1/170人	(5.9/1,000人)
H25年 (増員後)	9,041人	123万人	1/136人	(7.4/1,000人)
H29年	9,420人	120万人 *	1/127人	(7.9/1,000人)

* <http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon5/1kai/siryoo6-2-7.pdf>

在籍学生数の推移 (H22～H28)

【 全体 80校 】



平成28年度の在籍学生数

学年	入学年度	在籍学生数	入学定員数	在籍率
1年生	平成28年度	9,331 名	9,262 名	100.7%
2年生	平成27年度	9,799 名	9,134 名	107.3%
3年生	平成26年度	9,413 名	9,069 名	103.8%
4年生	平成25年度	9,520 名	9,041 名	105.3%
5年生	平成24年度	9,040 名	8,991 名	100.5%
6年生	平成23年度	9,174 名	8,923 名	102.8%

平成28年度の在籍学生数

- 平成28年度の各学年の在籍数を該当入学年度入学定員で除した値を在籍率として算出すると、明らかに2年生の学生数が多い(107%)ことが分かる。次いで、4年生が105%、3年生が104%となっている。
- 平成28年度は、2年次と4年次の在籍学生数がやや多い。

平成23年度から28年度までの在籍 学生数

学年	1年生 在籍率	2年生 在籍率	3年生 在籍率	4年生 在籍率	5年生 在籍率	6年生 在籍率
平成23年度	99.9%	104.7%	103.2%	102.5%	102.6%	95.9%
平成24年度	100.4%	105.7%	103.2%	102.2%	100.4%	105.4%
平成25年度	101.5%	108.2%	103.8%	101.8%	99.6%	102.8%
平成26年度	99.5%	108.3%	104.7%	103.2%	99.4%	101.1%
平成27年度	101.6%	107.0%	105.6%	103.7%	100.2%	101.9%
平成28年度	100.7%	107.3%	103.8%	105.3%	100.5%	102.8%

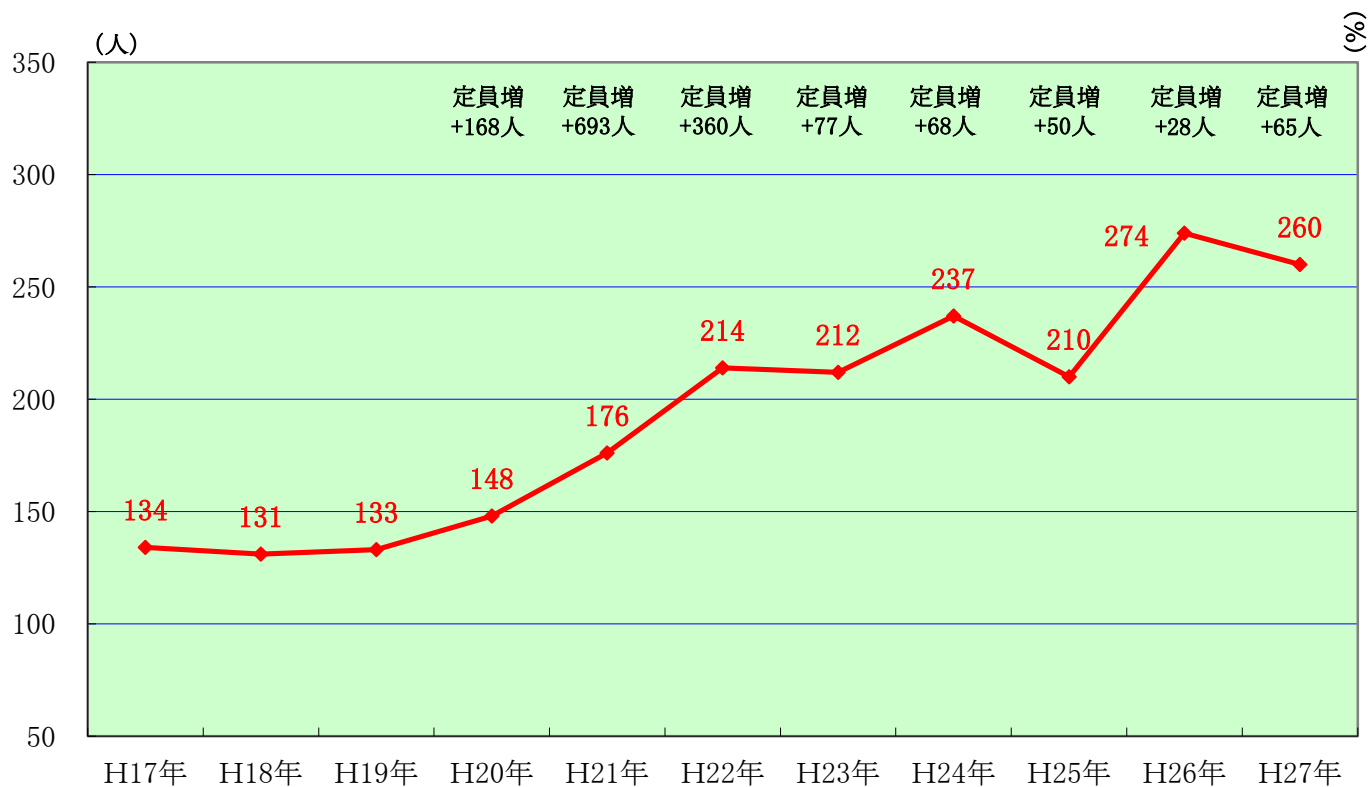
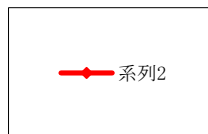
平成23年度から28年度までの 各学年での在籍率

- 在籍率が105%を超える高い値を示すのは、2年生（平成24年度～28年度）、3年生（平成27年度）、4年生（平成28年度）と6年生（平成24年度）である。
- 6年生の在籍率を見ると、定員増となった平成20年度入学以降も6年次の在籍率は保たれていることが分かる。

1年生での留年者数

【 留年者 1年生 】

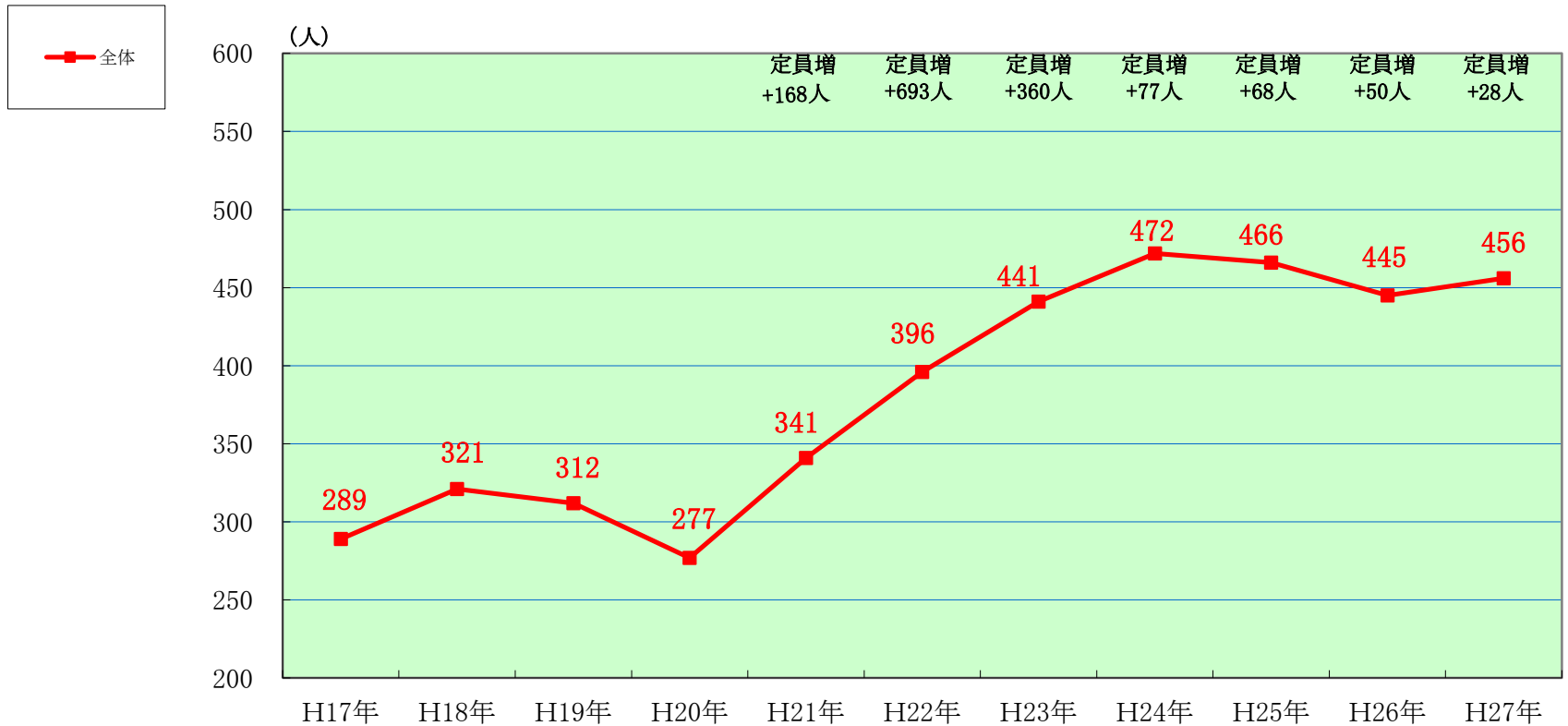
53大学 (国立30校 公立2校 私立21校)



2年生での留年者数

【 留年者 2年生 】

53大学 (国立30校 公立2校 私立21校)

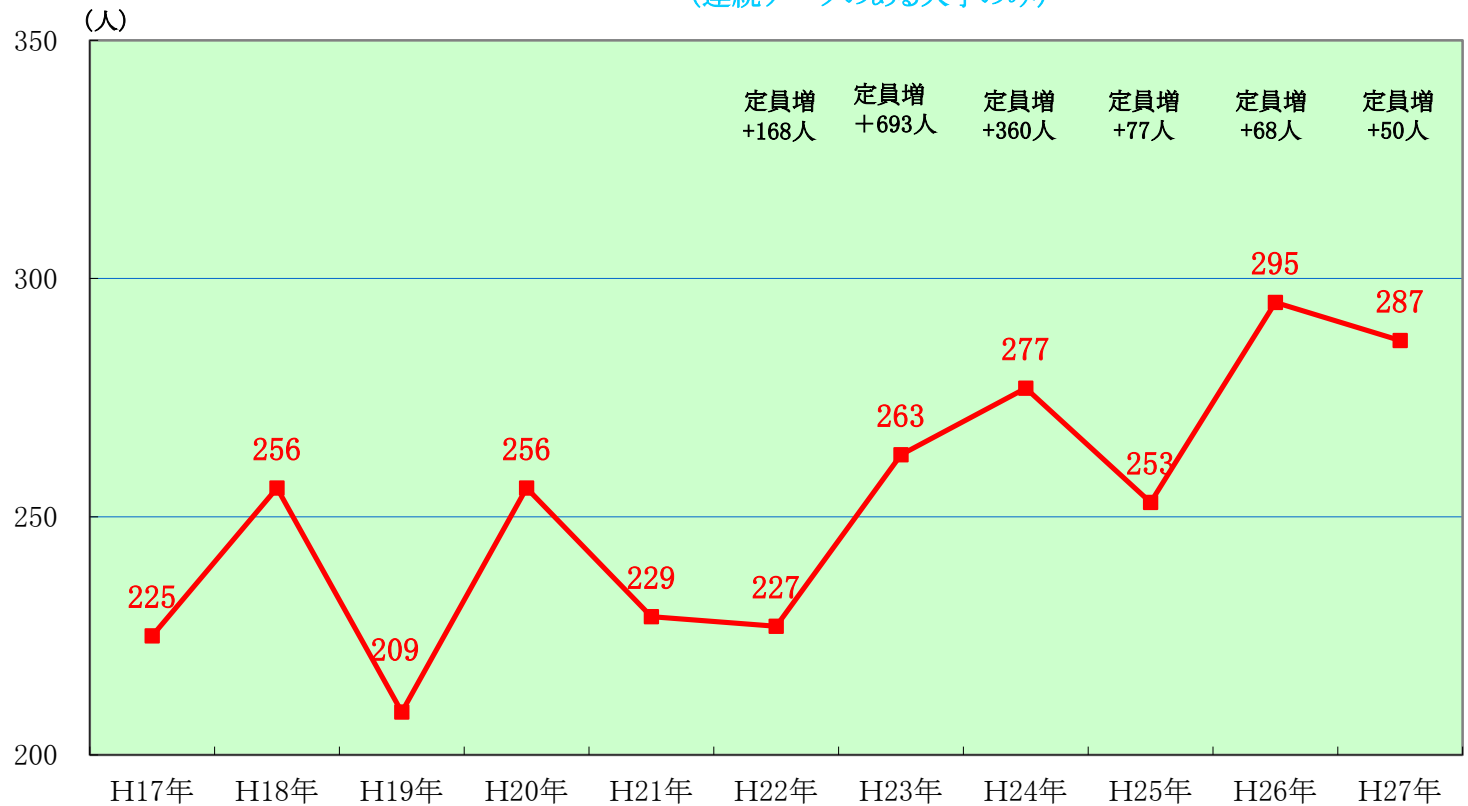
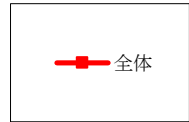


3年生での留年者数

【 留年者 3年生 】

53大学（国立30校 公立2校 私立21校）

（連続データのある大学のみ）

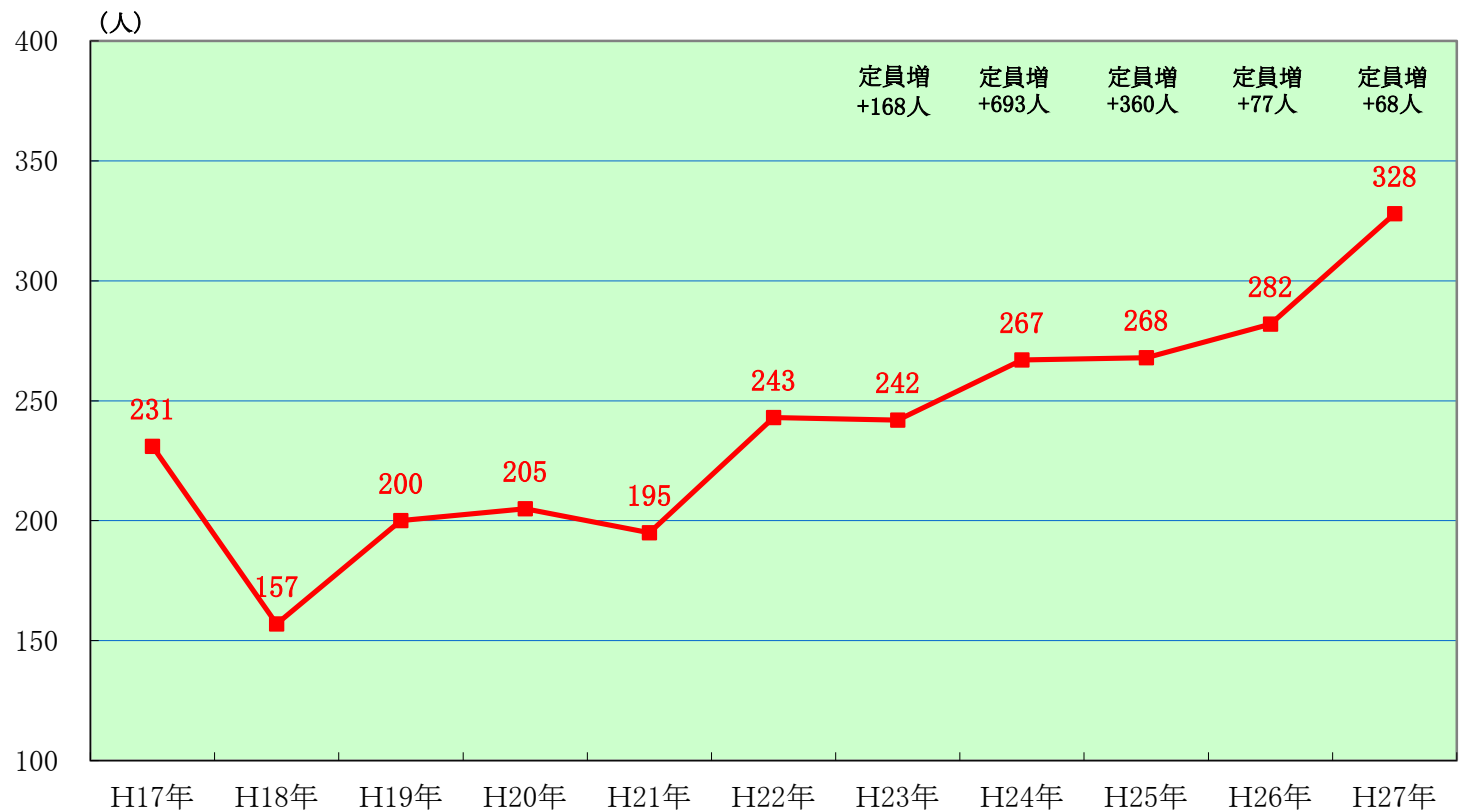


4年生での留年者数

【 留年者 4年生 】

53大学 (国立30校 公立2校 私立21校)

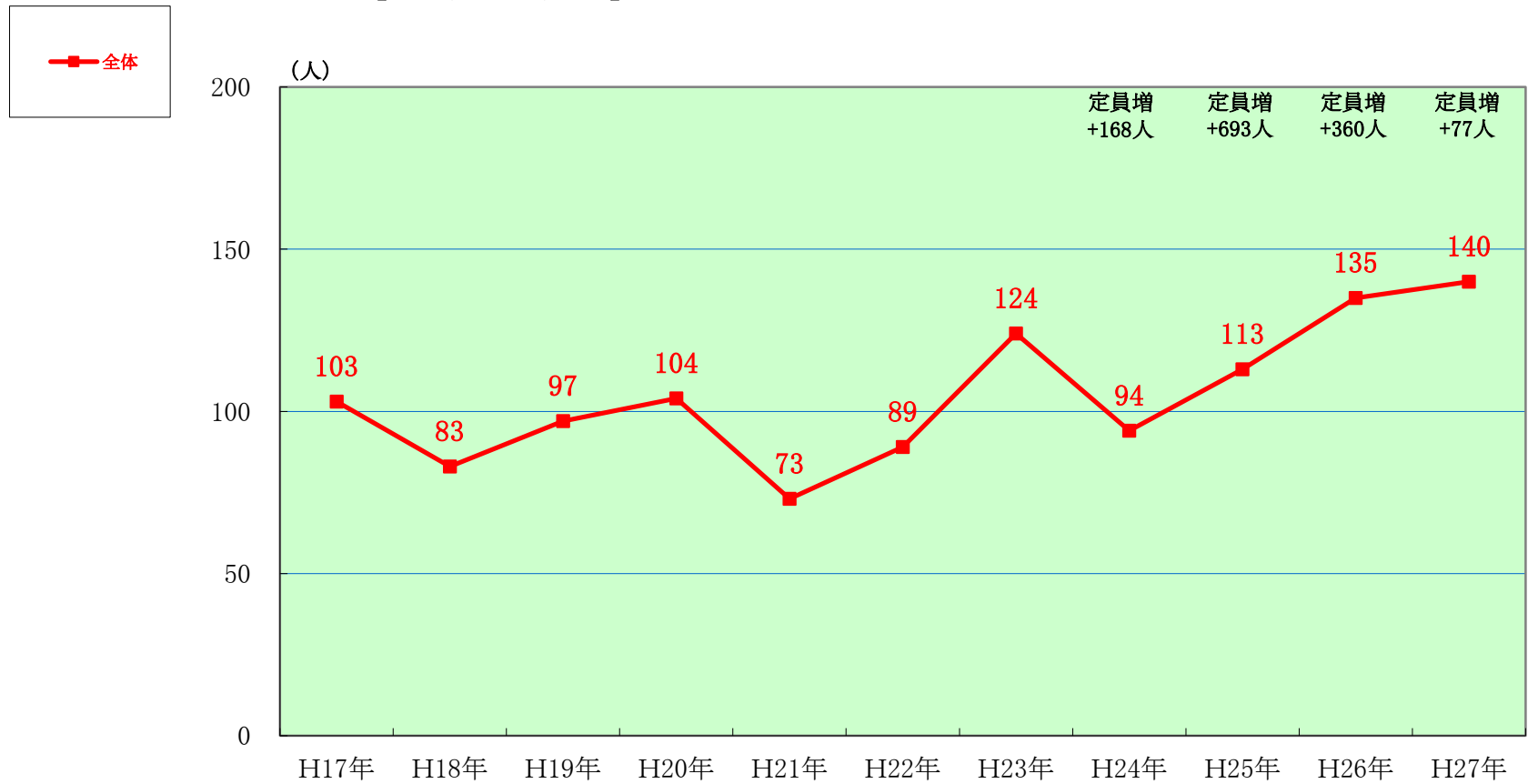
—■— 全体



5年生での留年者数

【 留年者 5年生 】

53大学（国立30校 公立2校 私立21校）

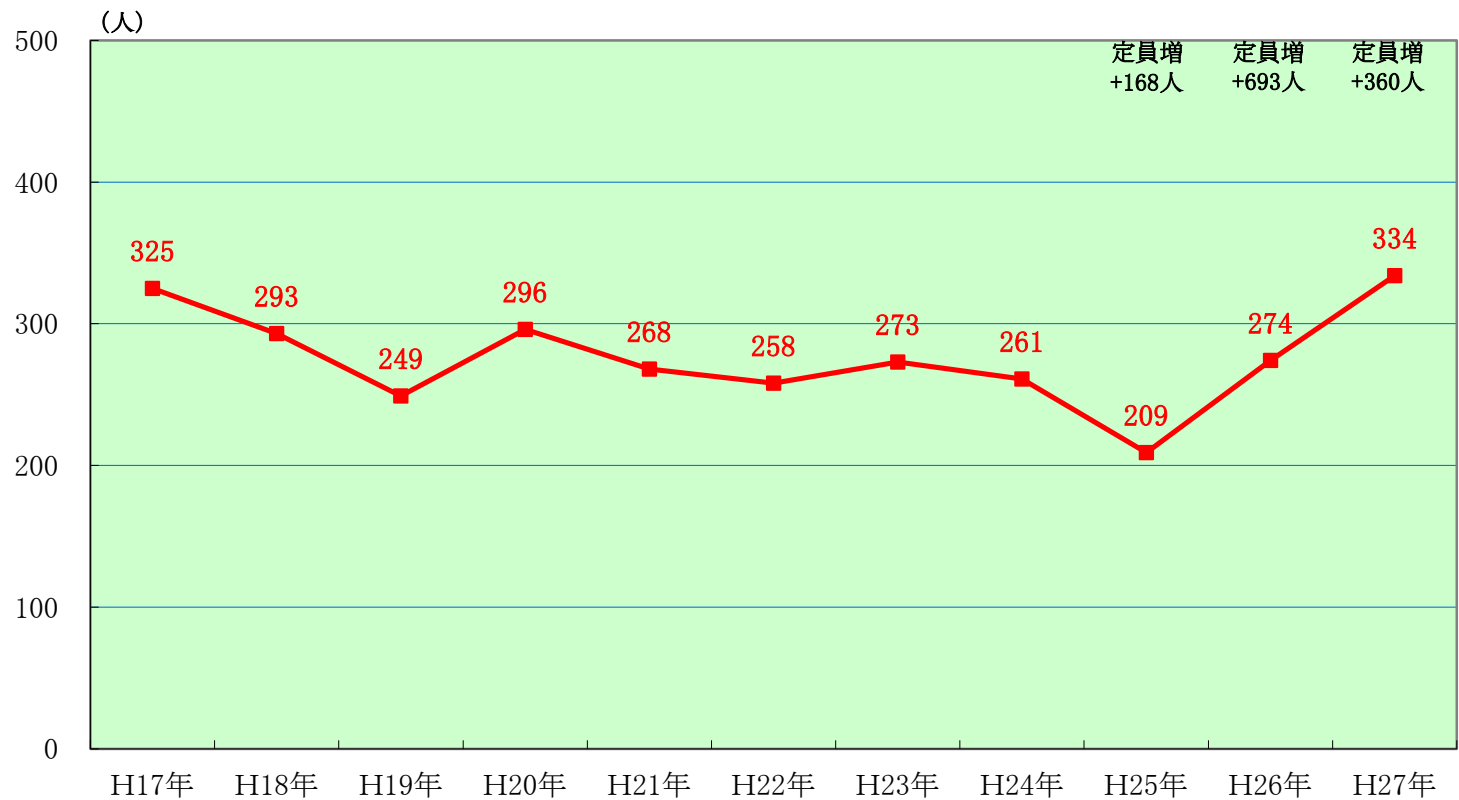


6年生での留年者数

【 留年者 6年生 】

53大学（国立30校 公立2校 私立21校）

■ 全体



各学年での留年率

	定員増以前の 留年者数平均	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1年生	132.7名	148名	176名	214名	212名	237名	210名	274名	260名
留年増加率		111.6%	132.7%	161.3%	159.8%	178.6%	158.3%	206.5%	196.0%
定員増加率		102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%	118.6%	118.9%	119.8%
補正留年率	100.0%	109.2%	119.2%	139.0%	136.6%	151.5%	133.5%	173.6%	163.6%
2年生	299.8名		341名	396名	441名	472名	466名	445名	456名
留年増加率			113.8%	132.1%	147.1%	157.5%	155.5%	148.5%	152.1%
定員増加率			102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%	118.6%	118.9%
補正留年率	100.0%		111.3%	118.7%	126.8%	134.6%	131.8%	125.2%	127.9%
3年生	235.0名			227名	263名	277名	253名	295名	287名
留年増加率				96.6%	111.9%	117.9%	107.7%	125.5%	122.1%
定員増加率				102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%	118.6%
補正留年率	100.0%			94.5%	100.6%	101.6%	92.0%	106.5%	103.0%
4年生	205.2名				242名	267名	268名	282名	328名
留年増加率					118.0%	130.1%	130.6%	137.4%	159.9%
定員増加率					102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%
補正留年率	100.0%				115.4%	116.9%	112.6%	117.5%	135.6%
5年生	96.1名					94名	113名	135名	140名
留年増加率						97.8%	117.5%	140.4%	145.6%
定員増加率						102.2%	111.3%	116.0%	117.0%
補正留年率	100.0%					95.7%	105.6%	121.0%	124.4%

(注: 定員増となった平成20年度入学者からの留年率を示している)

各学年での留年率の推移

- 学年での学生数の推移が連続してデータ化されている53大学（国立30校、公立2校、私立21校）を対象に各学年での留年者数を入学定員増が始まる以前までの留年者数の平均との比率を算出し、その率に当該学年での定員増加率を除した「補正留年率」を算出した。

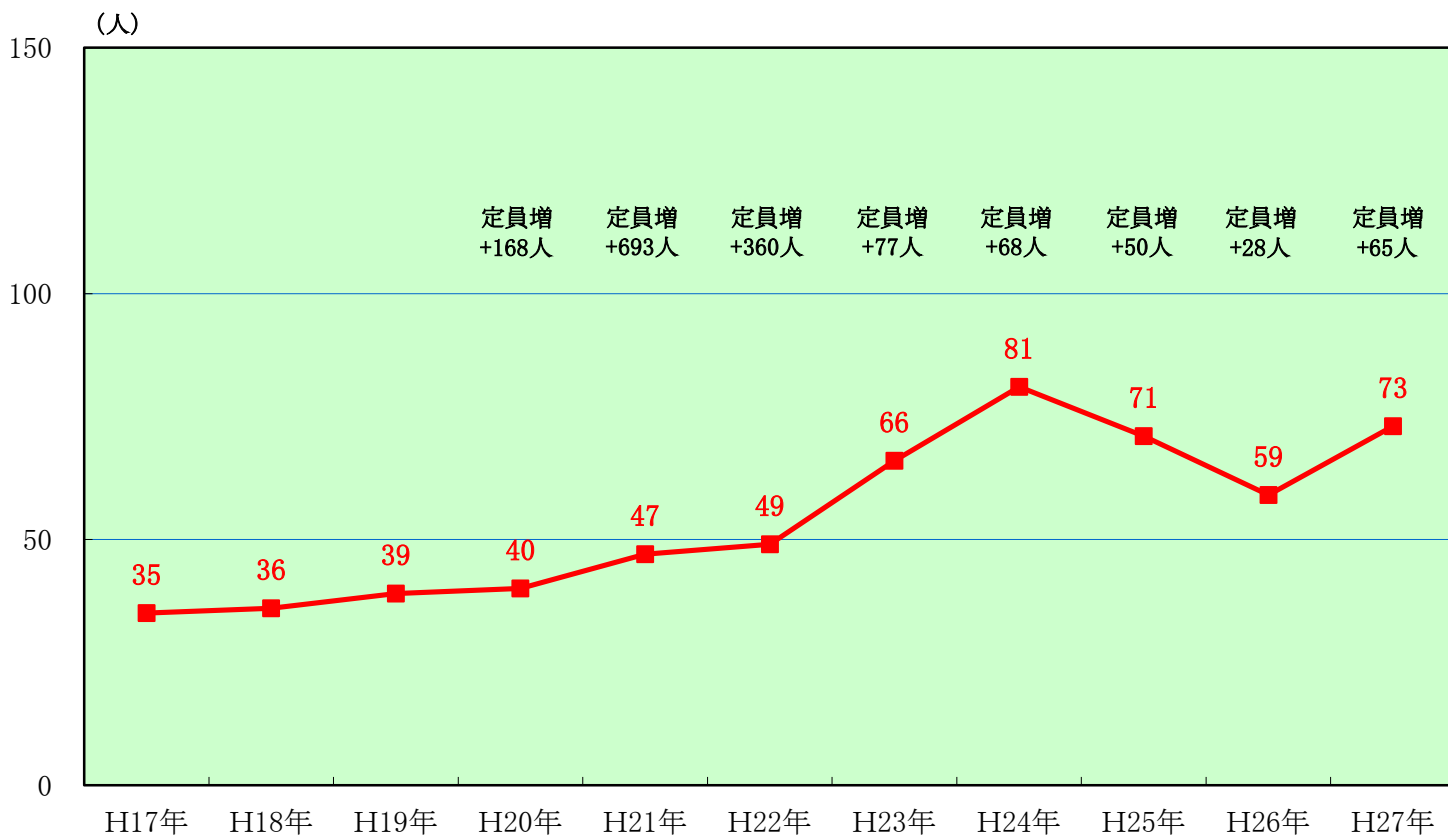
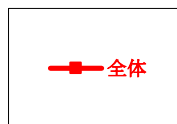
平成27年度のデータから

1. 1年生の留年率が平成20年度の定員増から高くなっている。平成27年度では53校で260名である。1年生の留年がやや高止まりの傾向がある。
 2. 2年生の留年者数は、53校で456名で定員増からも留年率が高くなっている。
 3. 平成27年度の調査では、4年生の留年者が328名と増えていた。
 4. 6年生の留年者が334名と増加している。
- 1年生、2年生、4年生と6年生に留年者が多い。

1年生休学者数

【 休学者 1年生 】

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

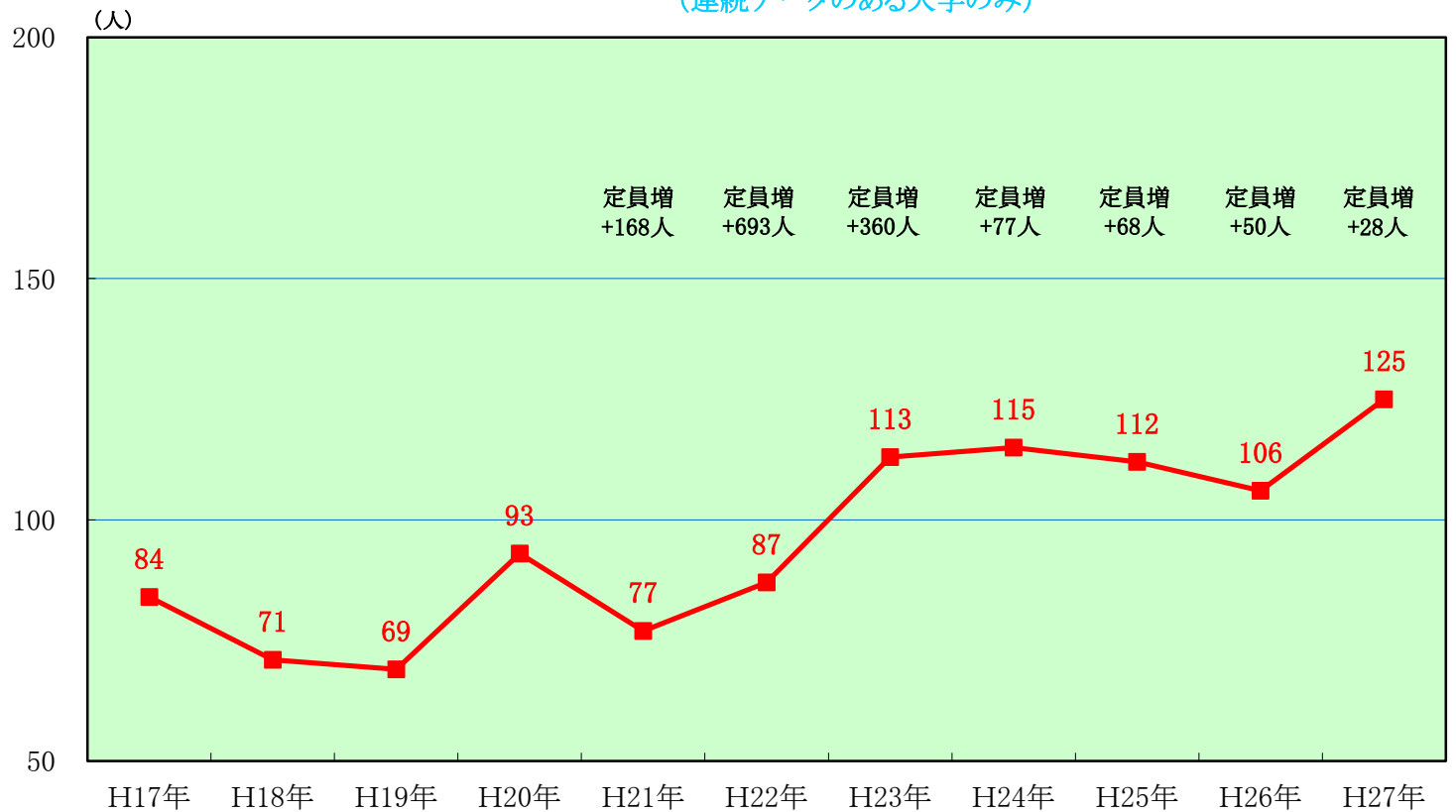


2年生休学者数

【 休学者 2年生 】

50大学（国立28校 公立2校 私立20校）

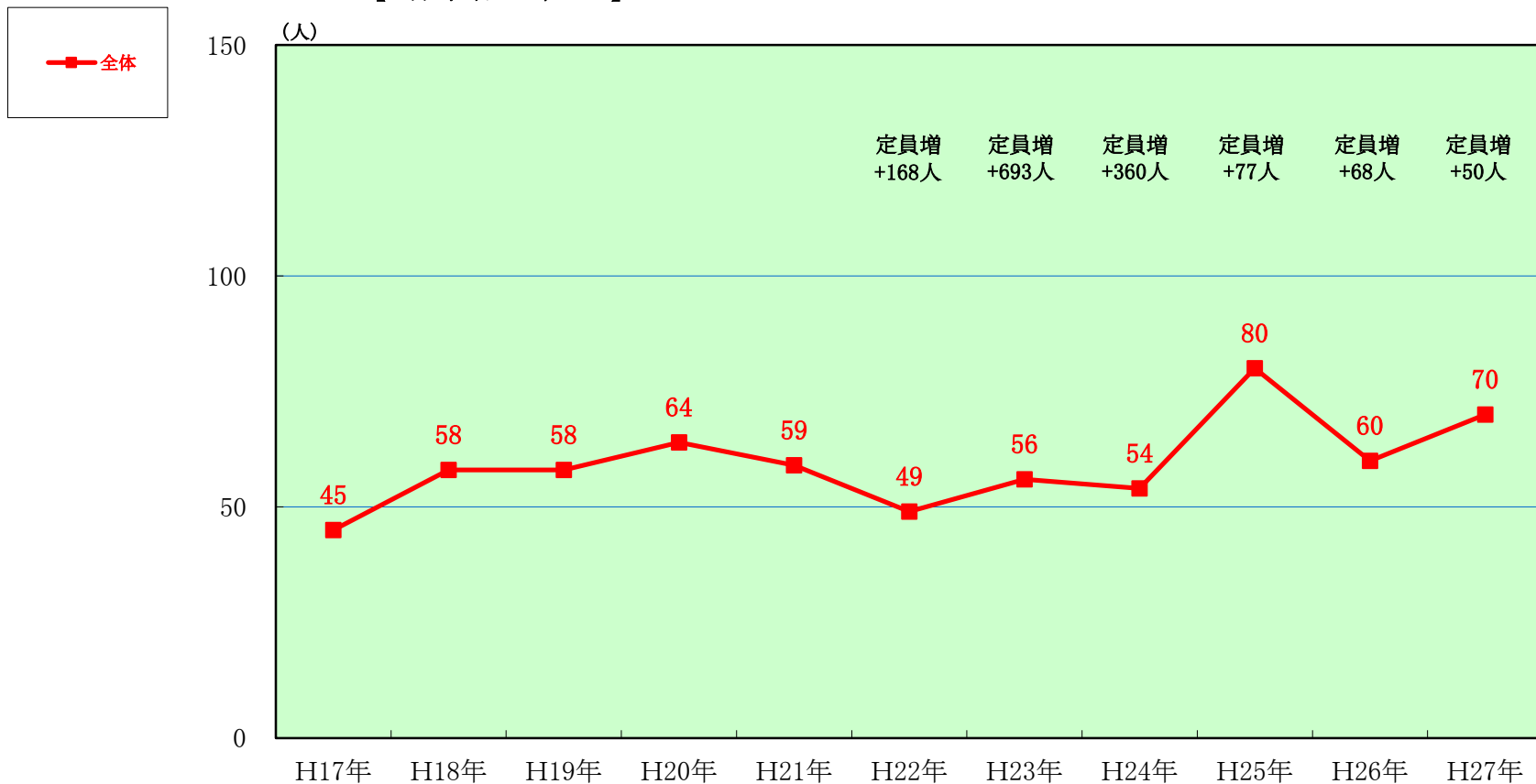
（連続データのある大学のみ）



3年生休学者数

【 休学者 3年生 】

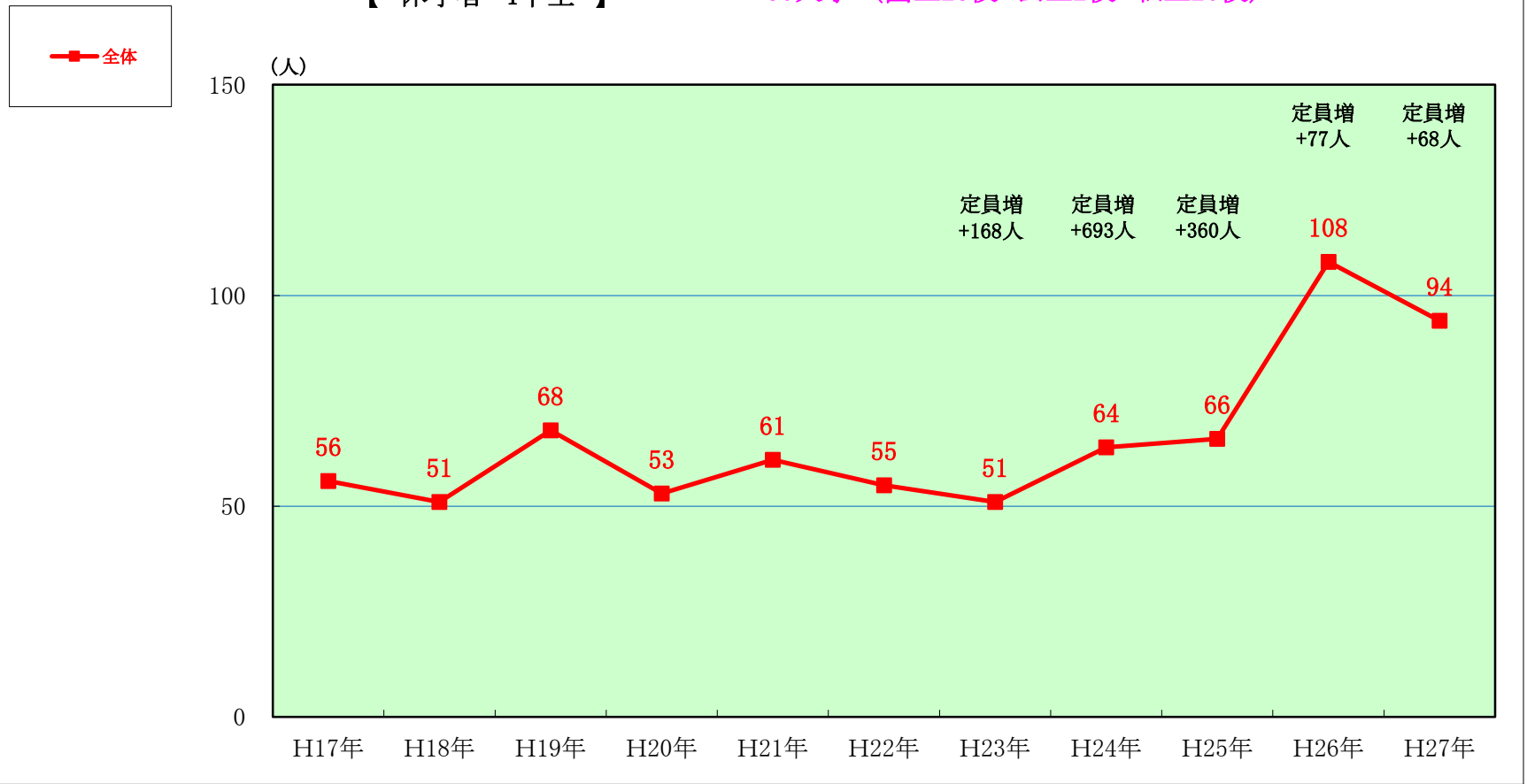
50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)



4年生休学者数

【 休学者 4年生 】

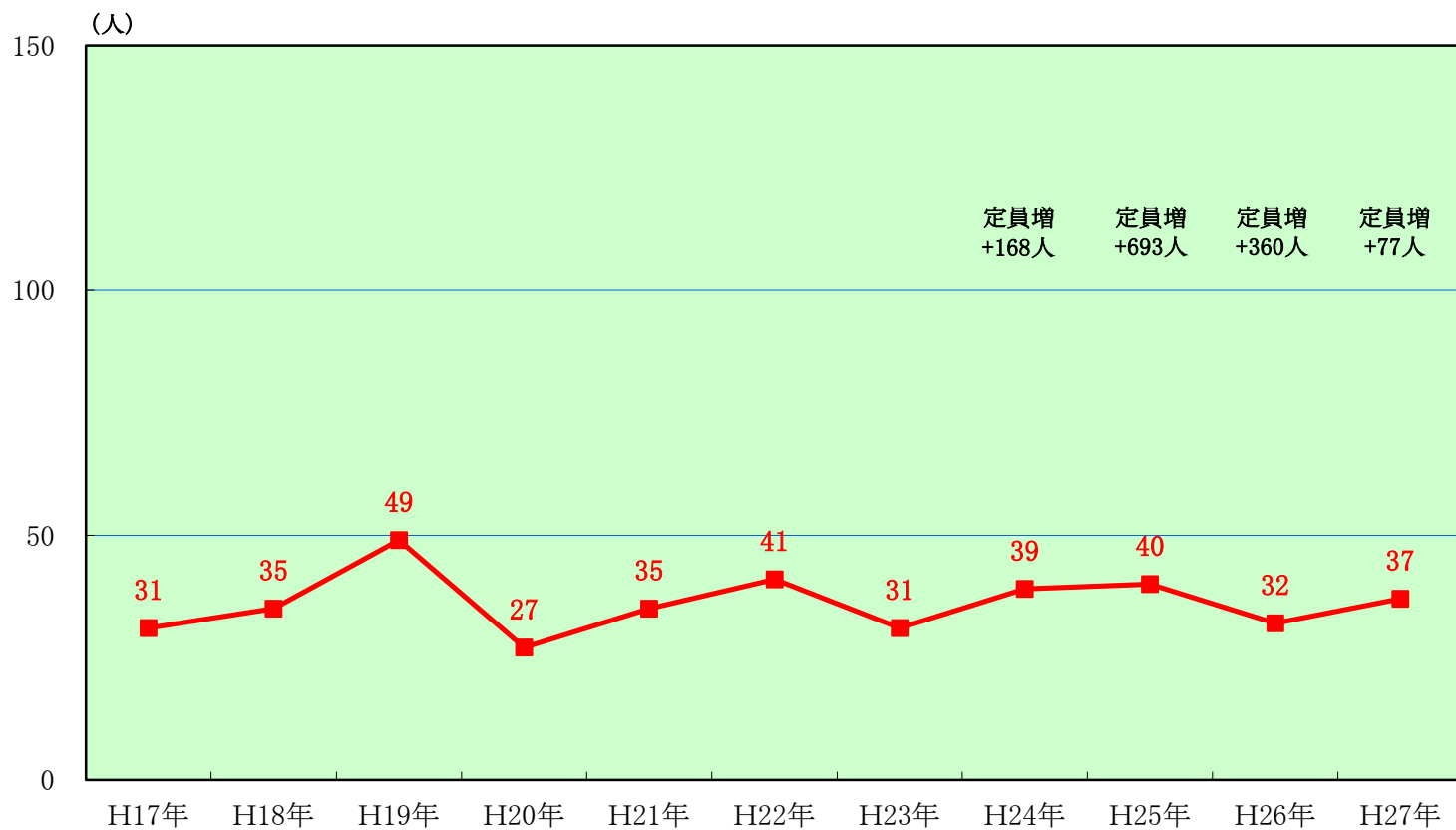
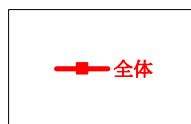
50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)



5年生休学者数

【 休学者 5年生 】

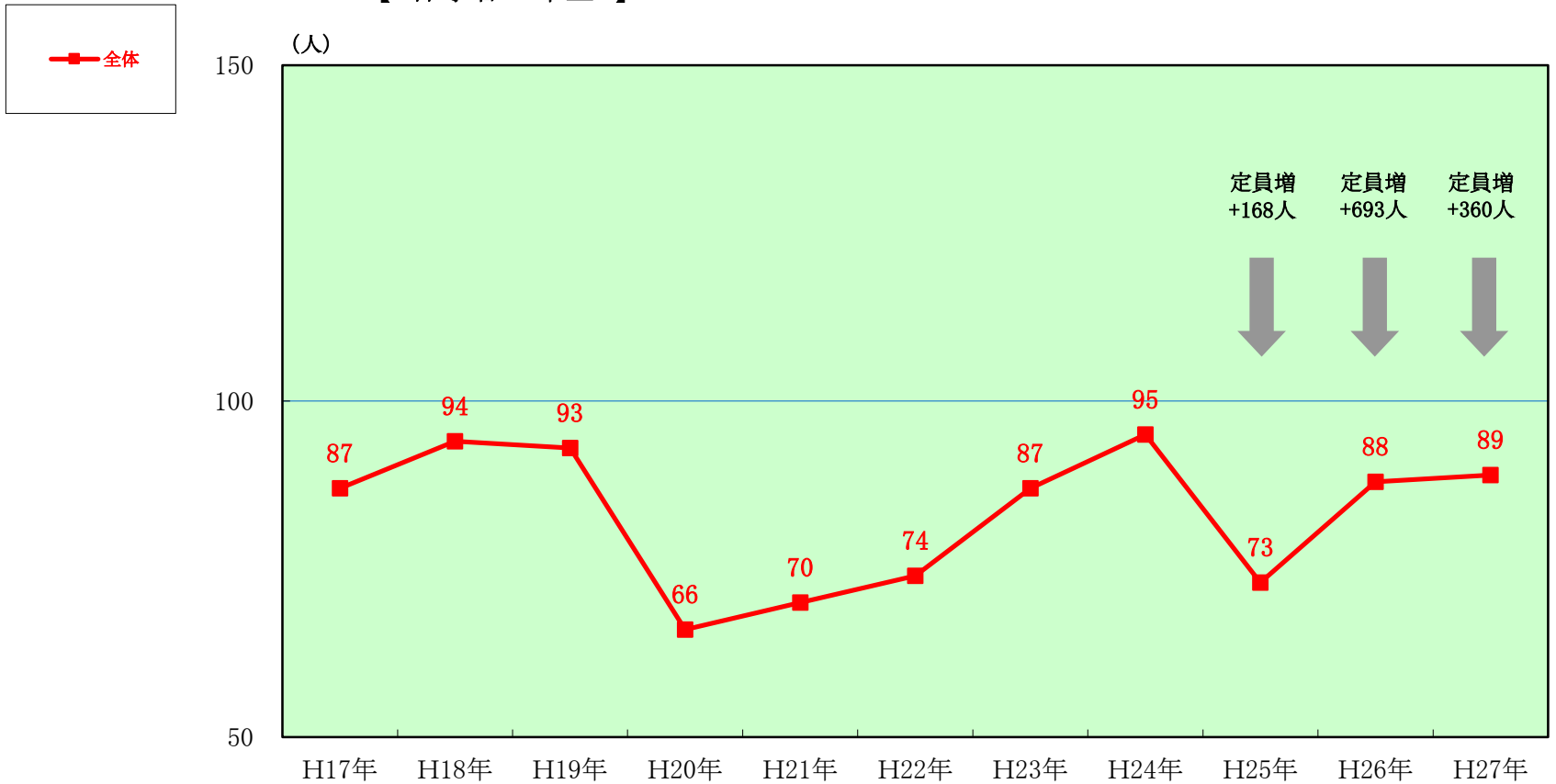
50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)



6年生休学者数

【 休学者 6年生 】

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)



各学年での休学率

	定員増以前の 休学者数平均	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1年生	36.7名	40名	47名	49名	66名	81名	71名	59名	73名
休学増加率		109.1%	128.2%	133.6%	180.0%	220.9%	193.6%	160.9%	199.1%
定員増加率		102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%	118.6%	118.9%	119.8%
補正休学率	100.0%	106.7%	115.2%	115.2%	153.8%	187.3%	163.3%	135.3%	166.2%
2年生	79.3名		77名	87名	113名	115名	112名	106名	125名
休学増加率			97.2%	109.8%	142.6%	145.1%	141.3%	133.8%	157.7%
定員増加率			102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%	118.6%	118.9%
補正休学率	100.0%		95.1%	98.6%	122.9%	124.0%	119.9%	112.8%	132.6%
3年生	56.8名			49名	56名	54名	80名	60名	70名
休学増加率				86.3%	98.6%	95.1%	140.8%	105.6%	123.2%
定員増加率				102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%	118.6%
補正休学率	100.0%			84.4%	88.6%	81.9%	120.4%	89.6%	103.9%
4年生	57.3名				51名	64名	66名	108名	94名
休学増加率					89.0%	111.6%	115.1%	188.4%	164.0%
定員増加率					102.2%	111.3%	116.0%	117.0%	117.9%
補正休学率	100.0%				87.0%	100.3%	99.2%	161.0%	139.0%
5年生	35.6名					39名	40名	32名	37名
休学増加率						109.6%	112.4%	90.0%	104.0%
定員増加率						102.2%	111.3%	116.0%	117.0%
補正休学率	100.0%					107.3%	101.0%	77.5%	89.9%

(注: 定員増となった平成20年度入学者からの休学率を示している)

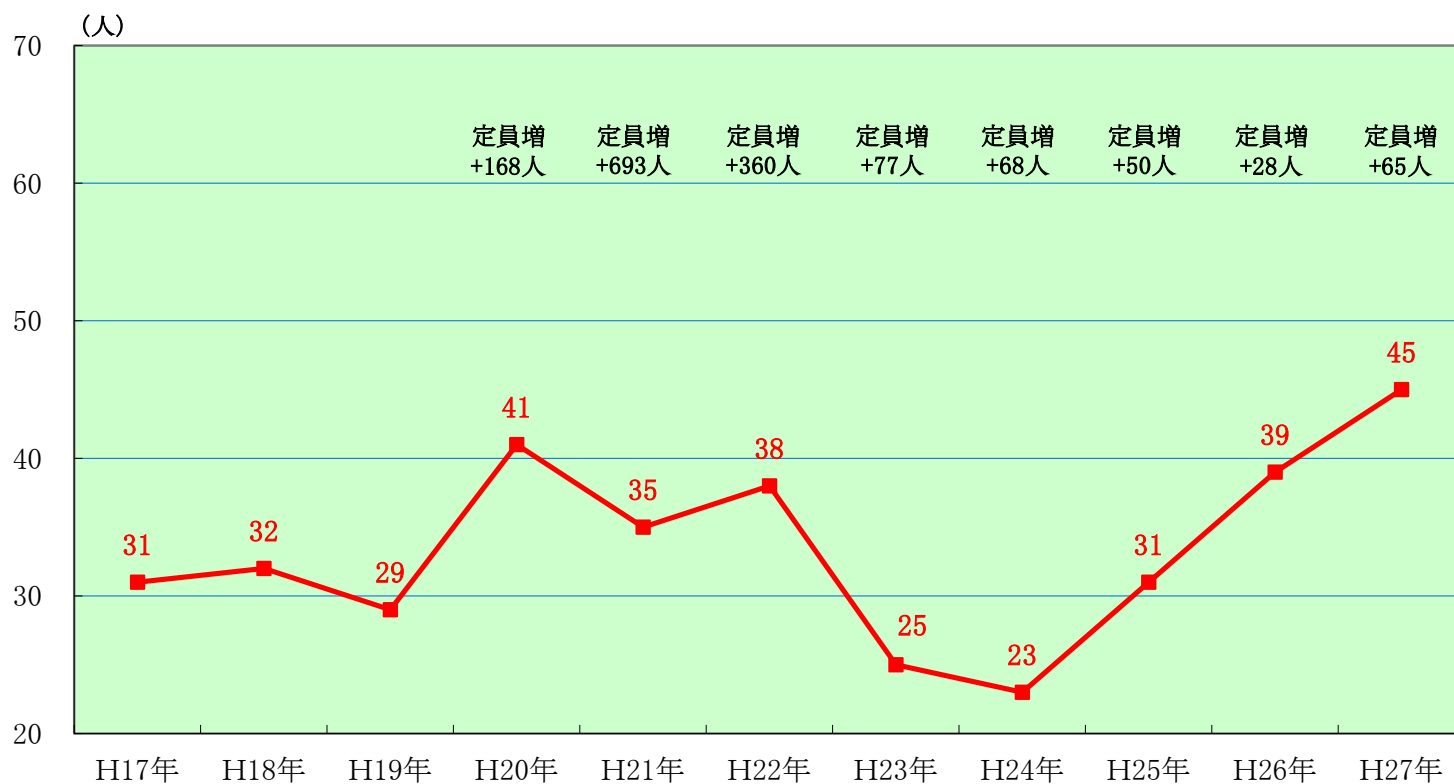
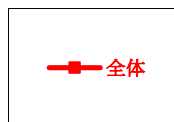
各学年での休学率

- 50校（国立28校、公立2校、私立20校）のデータがある。休学者の実数は少ないが、1年生、2年生、4年生で増加傾向がある。

1年生退学者

【 退学者 1年生 】

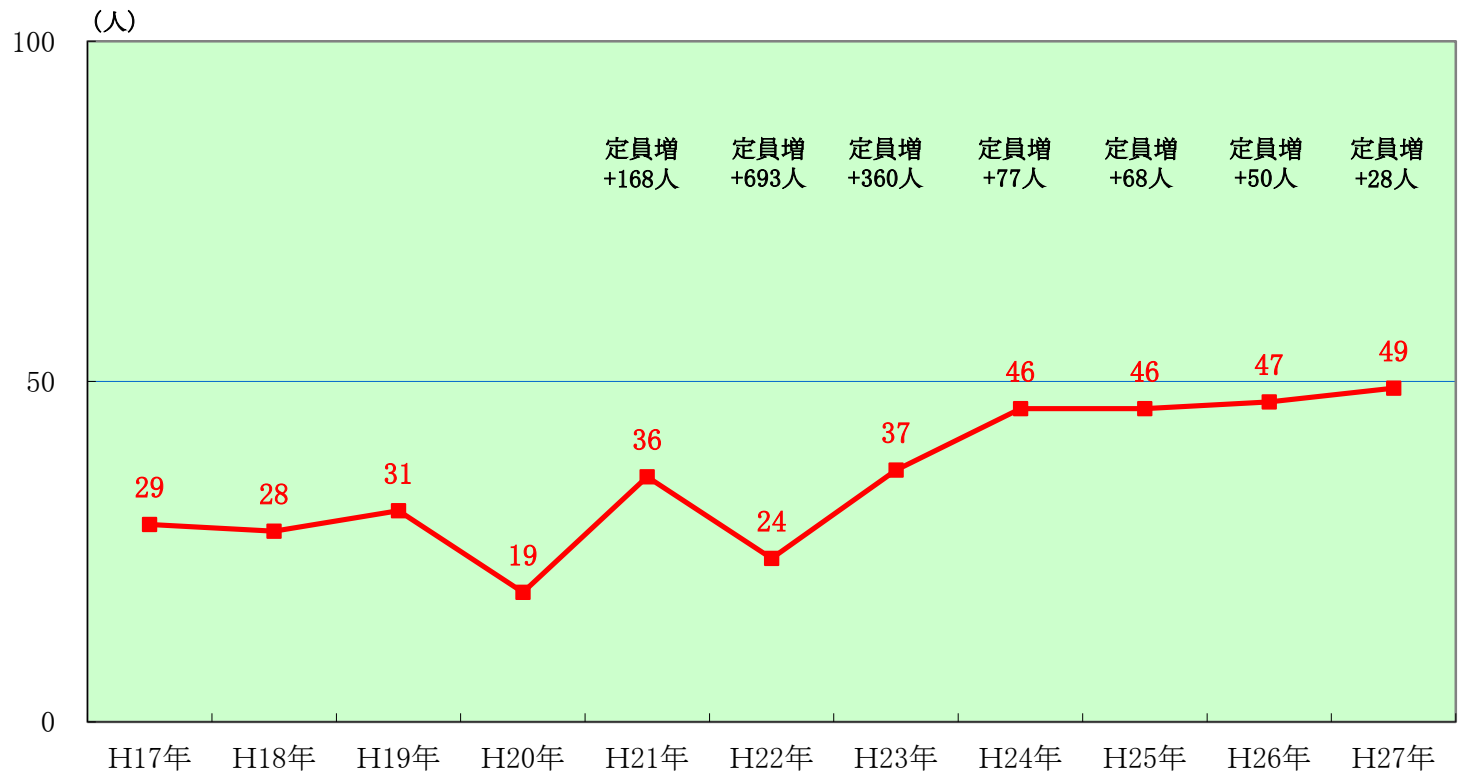
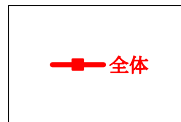
50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)



2年生退学者

【 退学者 2年生 】

50大学（国立28校 公立2校 私立20校）

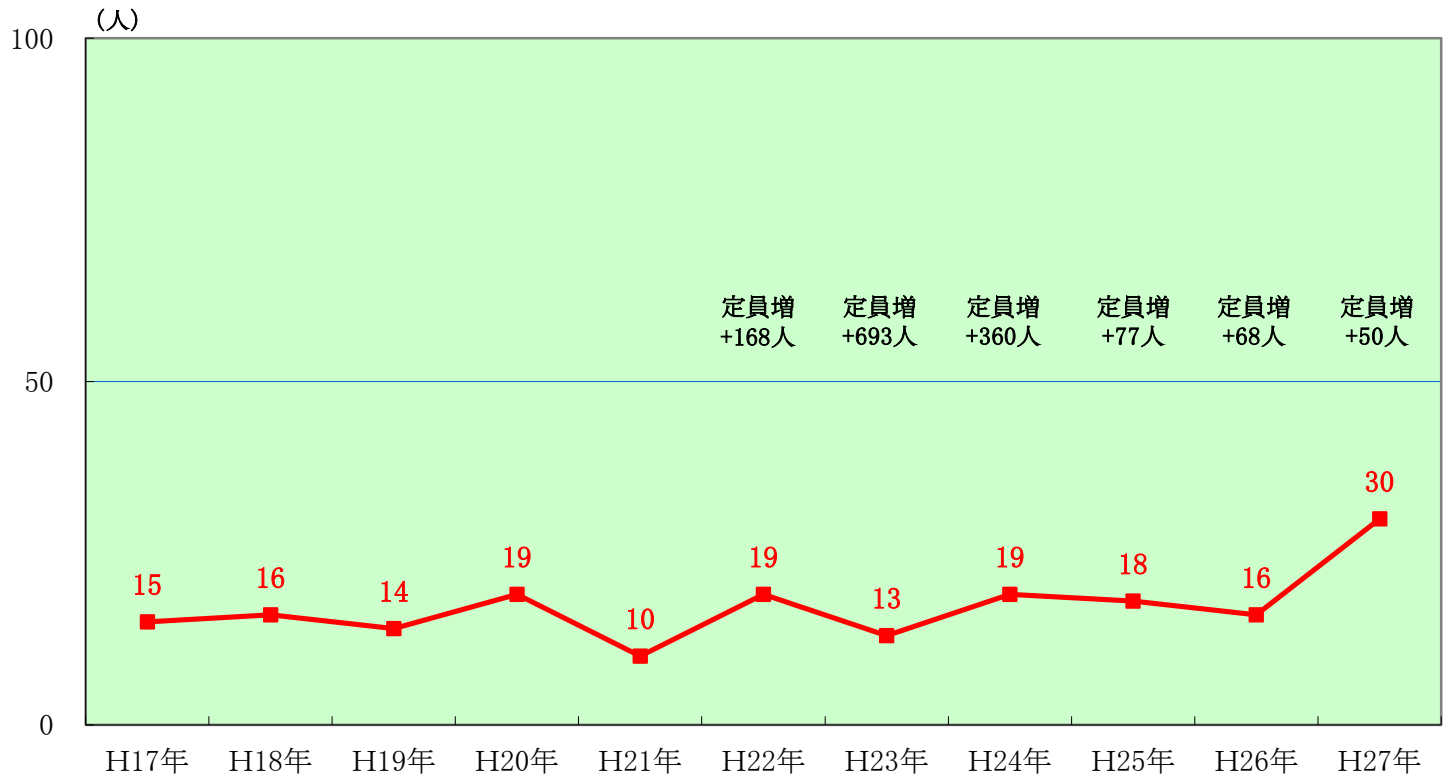


3年生退学者

【 退学者 3年生 】

50大学（国立28校 公立2校 私立20校）

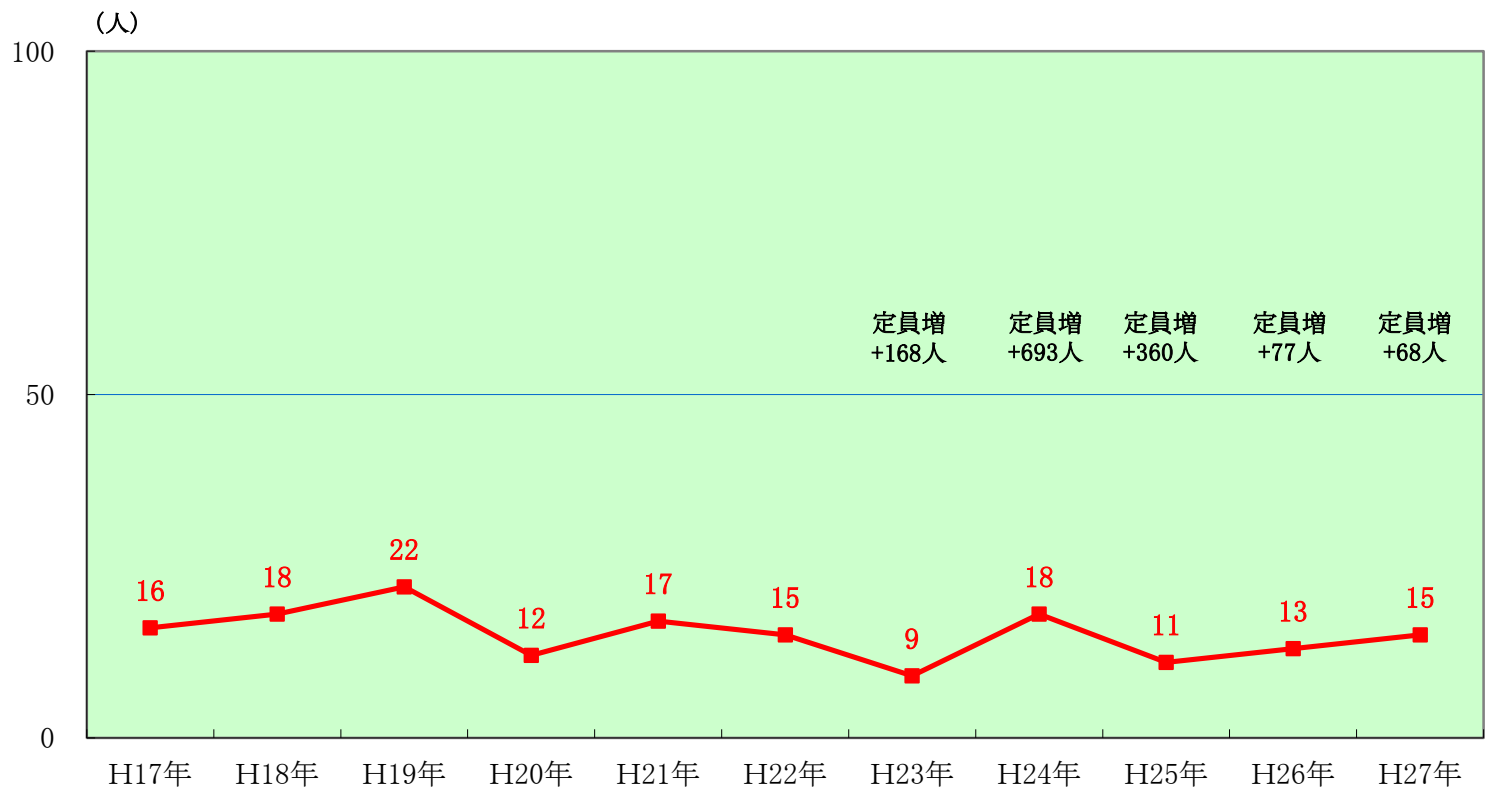
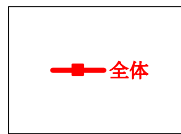
全体



4年生退学者

【 退学者 4年生 】

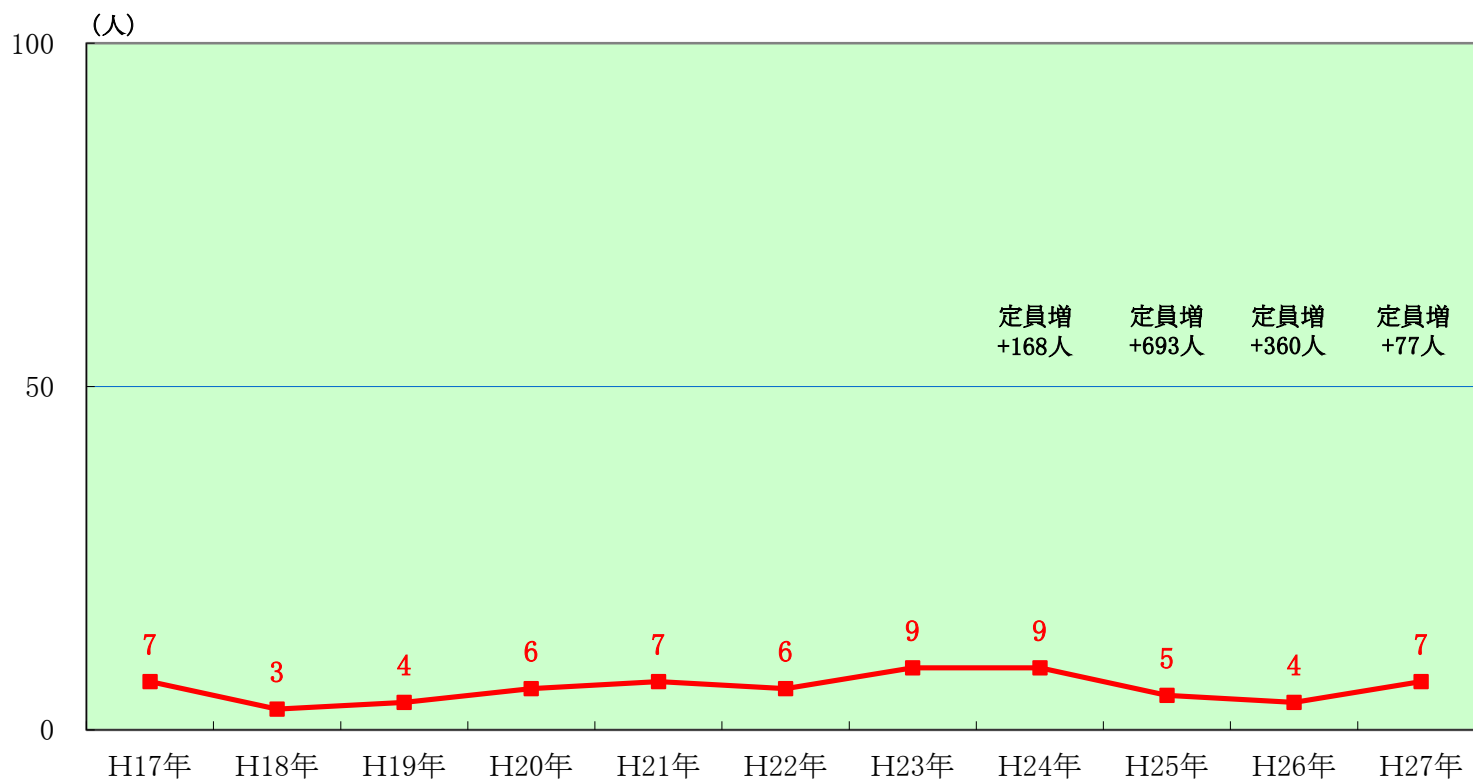
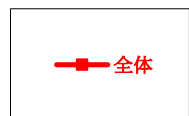
50大学（国立28校 公立2校 私立20校）



5年生退学者

【 退学者 5年生 】

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

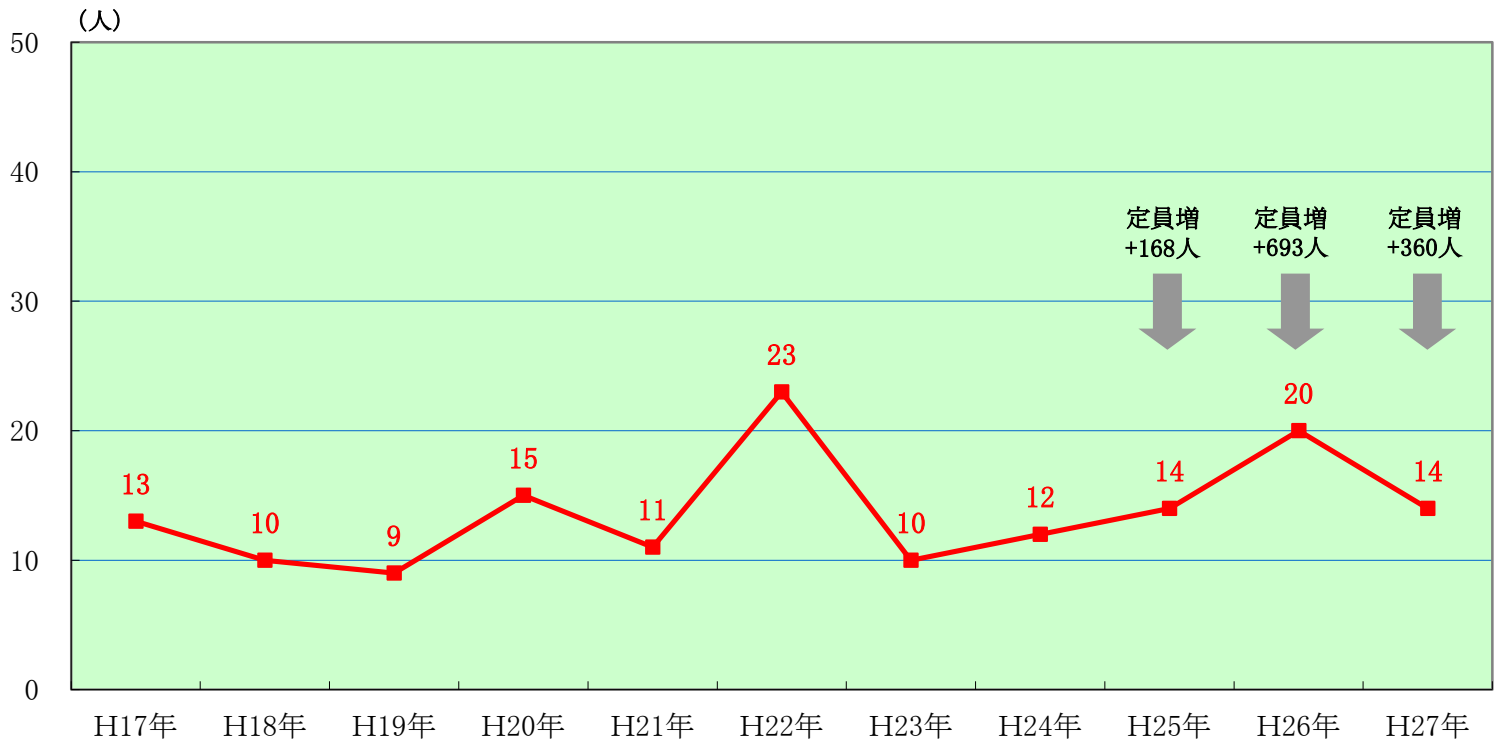


6年生退学者

【 退学者 6年生 】

50大学（国立28校 公立2校 私立20校）

■ 全体



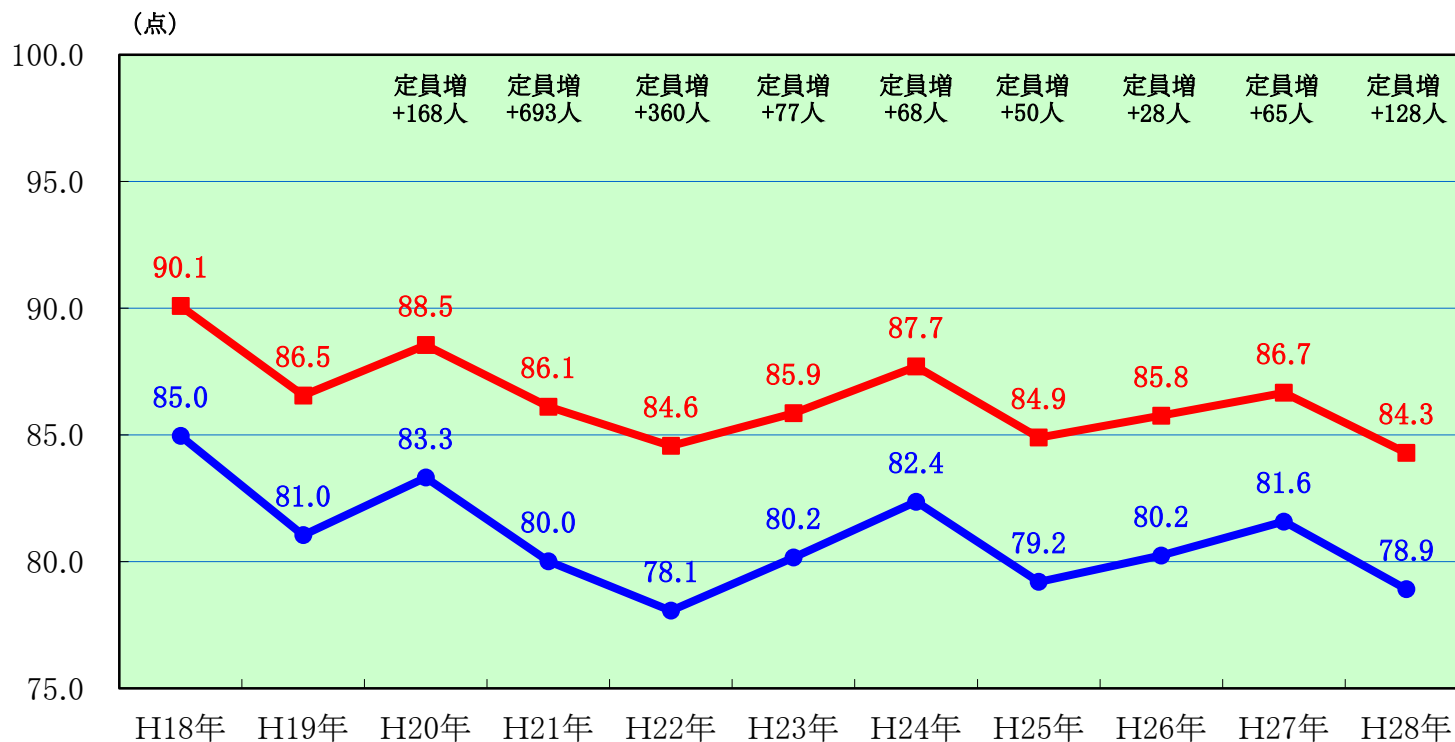
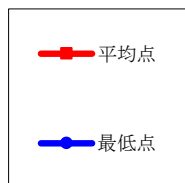
各学年での退学者

- 50校（国立28校、公立2校、私立20校）のデータがある。1年次の退学者が、平成25年度31名、平成26年度39名、平成27年度45名とやや増える傾向がある。
- 2年次の退学者はここ数年46から49名である。

入学者のセンター試験得点の推移

【 全体 】

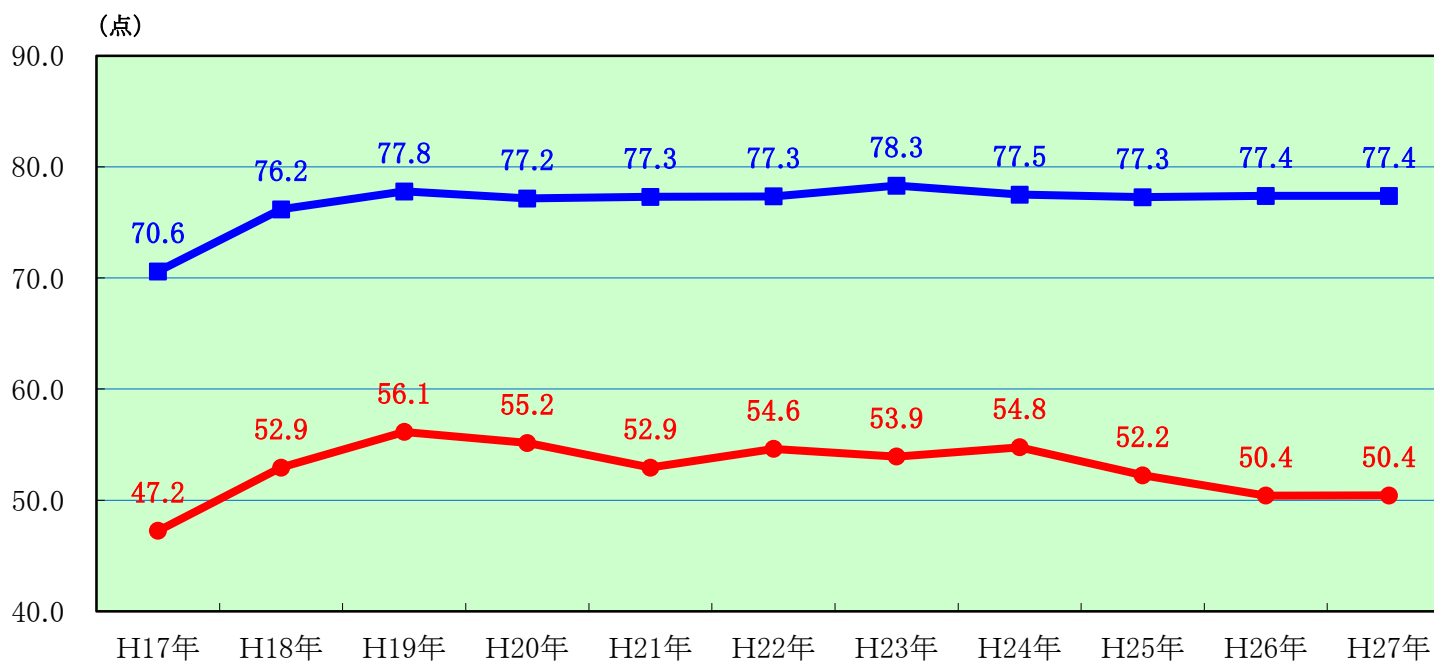
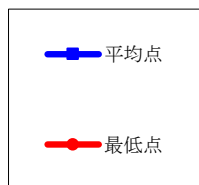
H18~H24年 31大学 (国立25校 公立3校 私立3校)
 H25年 30大学 (国立24校 公立3校 私立3校)
 H26~H27年 28大学 (国立23校 公立2校 私立3校)
 H28年 29大学 (国立25校 公立3校 私立1校)



共用試験CBTの得点推移

【 CBT 全体 】

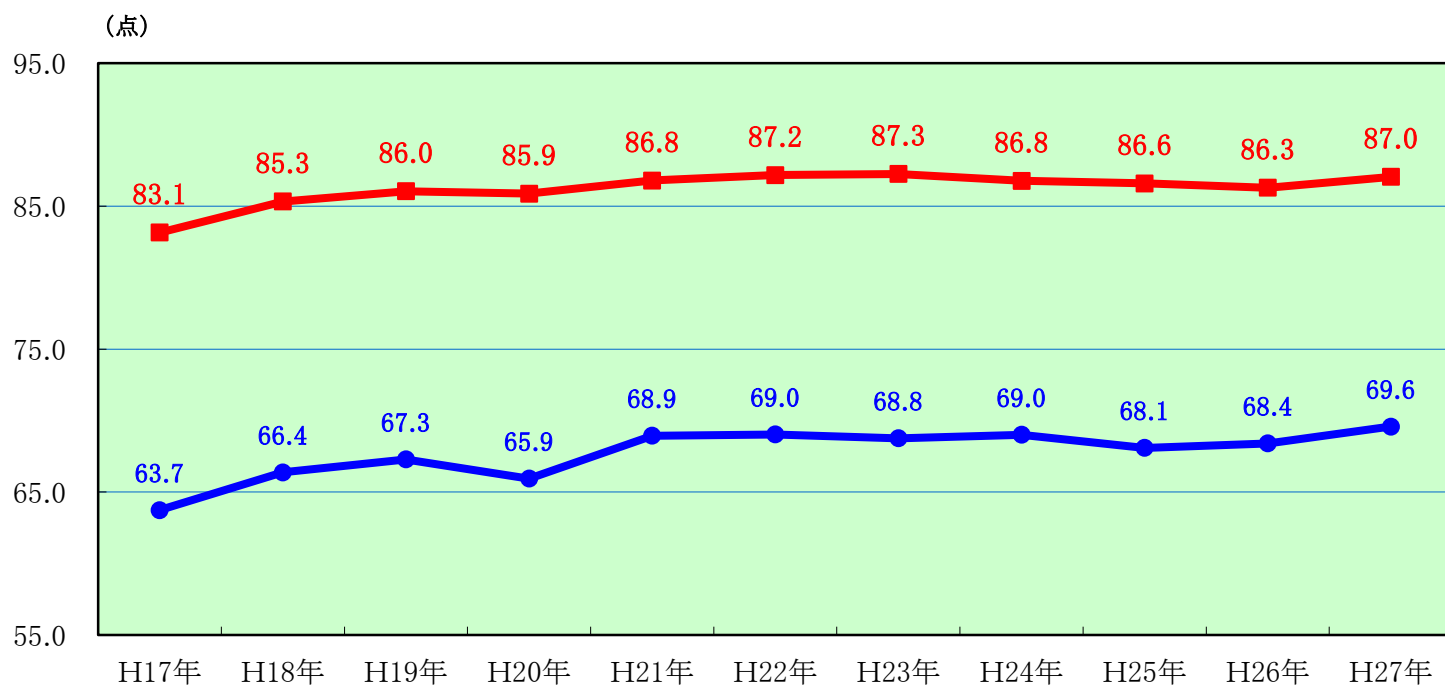
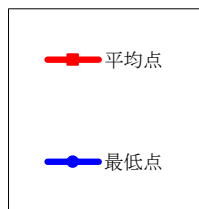
定員増 +168人 定員増 +693人 定員増 +360人 定員増 +77人 定員増 +68人



共用試験OSCEの得点推移

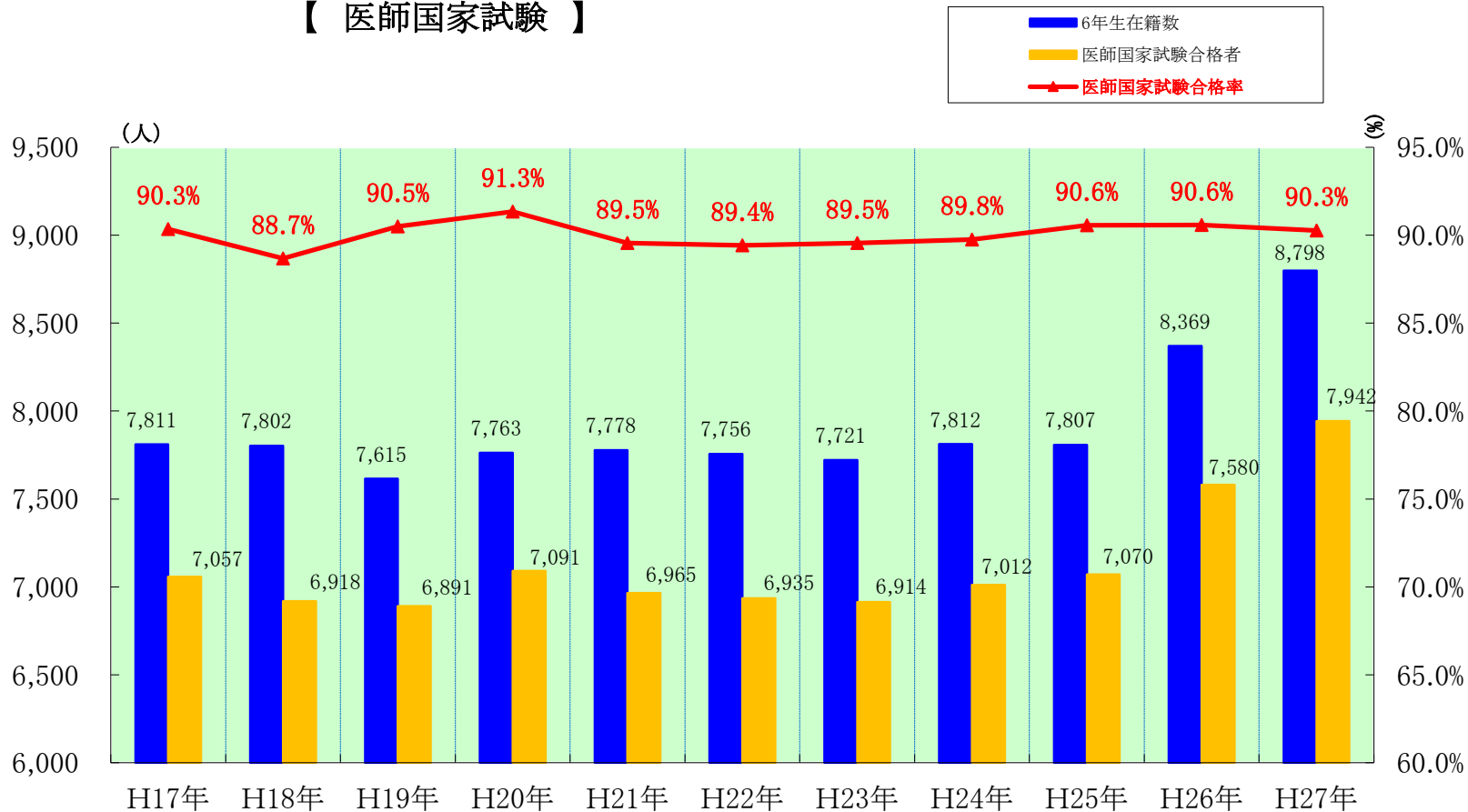
【 OSCE 全体 】

定員増 +168人 定員増 +693人 定員増 +360人 定員増 +77人 定員増 +68人



医師国家試験合格率

【 医師国家試験 】



共用試験・国家試験の成績について

- 臨床実習開始前の共用試験は、一般的には4年生の後期または学年末に実施されている。1年生、2年生の留年率や休学率が高く、低学年での学習に問題がある場合が想定されるが、4年生の共用試験での成績は定員増になってからも高いレベルで維持されている。
- 低学年で学習に問題が生じた学生も、医学部中学年には、少なくとも知識レベル、技能レベルの学習を十分行えていることがうかがわれる。

- 共用試験CBTでは、出題される問題の難易度をあらかじめ設定する方法が取られていることから、共用試験受験時の医学生の知識レベルの能力は十分に獲得されていると考えられる。
- 医師国家試験は相対評価が導入されているので、共用試験のような難易度測定をした問題での「能力値測定」にはなっていないため、能力値が定員増以前と変化があるかどうかは判断できないが、共用試験で能力が担保されて後の試験であることを考えれば、卒業時での知識レベルも十分担保されていると考えるのが妥当であろう。

自由記載から

- 今回のアンケートでは
 1. 医学科1年2年生の教育を担当されている教員にお尋ねします。低学年の学生の変化でお気づきのことをお書きください。
 2. 医学科1年2年生をご担当されている学務系職員にお尋ねします。低学年の学生の変化でお気づきのことをお書きください。

3. 基礎医学、臨床医学の教育（臨床実習開始前）を担当されている教職員にお尋ねします。学生の学修支援・学生支援で何か問題を感じている点があればお書きください。
4. 臨床実習をご担当の教員にお尋ねします。臨床実習での学生支援でお気づきの点がありましたらお書きください。

低学年、中学年、臨床実習の担当の教職員に回答をお願いした。

1年次、2年次を担当する教員から

	【 国立大学 】	【 公立大学 】	【 私立大学 】
①自ら学ぼうとしない・貪欲さが無い	13	1	11
②学力の低下	14	1	7
③自分で調べる、考える、復習など個別学習ができない	8	2	11
④効率を重視している・要領がよくなった	7	1	9
⑤真面目な学生が多い・おとなしい	7	2	3
⑥対人関係を構築するのが苦手・コミュニケーション能力に問題がある	3	1	6
⑦指示待ち・受け身の姿勢・受動的	4	2	4
⑧幼稚になった・幼い・未成熟・大人になりきれていない	4		5
⑨コミュニケーション能力が高くなった	3		5
⑩基礎学力は改善傾向にある	5		1
⑪上位と下位の学生の格差が目立つ	3	1	2
⑫自己主張が少ない・個性がない・積極性がない	3		3
⑬授業に臨む態度が改善した	3	1	1
⑭講義や授業に集中していない	1	1	3
⑮健康面に問題を抱えている	2		1
⑯以前より忙しい・負担が大きい	3		
⑰教員に対する心理的な距離が近い	2		1
⑱その他	4	1	2
回答記入校	42校	8校	25校

自由記載から

- 最近の学生は、学習態度が受動的である学生が多く見受けられる。具体的には、入学前に予備校や塾で受けた教育(分からないことは教師が要点を抽出してまとめて教えてくれることなど)を期待するような受け身の態度を強く感じる。同様に、自分で講義ノートを取り、その中から重要なポイントを抽出するという一連の作業に慣れていないため、勉強とは暗記するものという考えが根強いようである。また、自分で筋道を立てて書いたり説明したりすることが苦手であり、問題を解く過程よりも答えが合っているかどうかを重視する傾向の学生が多くなっている。レポート課題などではネットのみで解決しようとする傾向なども目立ち、その一次情報をいかに取り扱うかの教育がなされず、安易に結果だけを求める学生も多い。

- 非常に受験テクニックに長けた、言われたことに対してはまじめに対応する学生が多いという印象。しかし、その一方で、提出物の期限を守らない、時間厳守ができないなど、様々なルールを守れない、周りに対する気遣いができないなど、非常に幼稚な学生も増えている。権利意識が強く主張はするが、それに伴う責任の欠如が見られることも多い。
- 叱られたり注意されたりした経験がほとんどなく、些細なことで大きなショックを受けるといった印象である。簡単に言うならば、かなり幼稚になったという印象である。
- 授業には真面目に出席するが、授業時間以外での勉強時間が少ない。自主的に学習したり、読書したりする学生が少ない。学力は全体的に毎年少しずつ低下し、論理的な文章を書けない学生が増えている。コミュニケーション能力は良好で、プレゼンも上手な学生が多い。
- 最近では、将来医師になるという意欲がやや曖昧な学生が増えているように思います。

1年生、2年生を担当する職員から

	【 国立大学 】	【 公立大学 】	【 私立大学 】
①マナーやモラルに欠ける・態度が悪い	10	1	4
②精神面が弱い	4	1	6
③人の話を聞かない・連絡事項を確認しない・期限を守らない	5		4
④主体性が無い・自発的に行動できない	5		3
⑤学力の低下	3	2	2
⑥コミュニケーション能力の低下	3		4
⑦学習意欲が希薄	3	1	3
⑧学力の底上げをしている・サポートが必要	1		3
⑨学年やクラスの纏まりが過去に比べ希薄に感じる	3		1
⑩おとなしい・真面目	1	1	2
⑪学力の二極化が顕著になっている	1		2
⑫自己主張が強い	2		1
⑬留年する学生が増えた	3		
⑭休学や退学が増えている			3
⑮大学に対する要求が年々過剰になっている	1	1	1
⑯モチベーションが上がらない学生が多い	2		1
⑰学習意欲が旺盛	1		1
⑱その他	3	1	4
回答記入校	40校	6校	24校

自由記載から

- 学生へメール等で連絡をし、返信を求めても返信がない学生が多い。説明会を無断欠席する学生がいる。
- クラス内で協力して助け合う力が弱まっているか、その輪には入れない学生が増えているのではと感じる。
- 精神面において年齢相応の対応ができない学生がいる。大学での学習支援、生活支援のみならず、私生活の支援も必要な学生が増え、また保護者もそれを求める傾向にある。
- 両親が医師ではない学生も増加しております。その中で、医師になるという目標に馴染みきれず、迷いが生じる学生や、親が医師という環境で育った学生とのギャップに違和感をもつ学生などが見受けられ、場合によっては休学、退学となるケースもあります。

- 公共の場と私的な場の区別ができない学生が多くなったように感じる。高い学力を持ちながら、モチベーションの上がらない学生がみられる。
- ストレス耐性が弱く、メンタル不調が1年生から2年生への進級にも影響してしまう学生が出てきている。
- メールへの対応には慣れていますが、窓口対応時等、コミュニケーションが苦手な印象である。
- 自分の友人以外の人とは直接積極的に関わろうとせず、PBL形式の講義でグループを指定したり、学外実習の事務説明会で各班毎に座らせるために座席を指定したりすると、不満を言う学生がいます。一方で、face to faceではないコミュニケーション(SNSや無記名アンケート)などでは大胆な発言をする学生が増え、特にもSNSではプライベートとオフィシャルの境なしに自分を発信する学生が目立ってきており、モラルが低下していると感じています。

臨床実習前教育を担当する教職員から

	【 国立大学 】	【 公立大学 】	【 私立大学 】
①自発的な学習ができていない・自主性が乏しい	11	1	8
②モチベーションが低い学生がいる・モチベーションに問題がある	8		5
③精神的な悩みを持っている・メンタルサポートが必要	9		3
④学力の低下・成績不振者の増加	6	1	4
⑤マナーや接遇教育の必要性がある・態度が悪い・モラルが欠如している	8	2	1
⑥教員不足・人員不足	8		3
⑦効率を重視する学生が多い	4		6
⑧留年を繰り返す学生がいる・授業についていけない	7	1	1
⑨カウンセラーなど専門的な知識と経験を有する人のサポートが必要	5		1
⑩経済的に苦しい学生がいる	3		2
⑪学生数の増加に問題がある	5		
⑫カリキュラムの見直しが必要	3		2
⑬学修支援の効果の有無は様々な要素がからんでくるのでむずかしい	2		2
⑭学生の支援に必要な資源(教室、グランド、食事・休憩施設他)が不十分	2	1	1
⑮コミュニケーション能力の低下・友達ができない	2	1	1
⑯授業数が多い・修学の内容が多い	1	2	1
⑰課外活動と学修活動の優先順位をうまく付けられない	2		1
⑱SNS他の使用に問題がある	3		
⑲授業時間が短くなっている	2	1	1
⑳学力の二極化が顕著になっている	1	1	1
㉑基礎と臨床の内容の水平統合、垂直統合が進んでいない	2		
㉒体調を崩す学生が増加している・体調管理が不十分	1	1	
㉓その他	6		7
回答記入校	42校	8校	24校

自由記載から

- 優秀で積極的な学生は自らどんどん学ぶのでよいが、問題は下位グループの学生である。成績不振にはいくつかのパターンがあると思われる。①部活やバイトで多忙すぎる、②孤立しており、試験に関する情報が乏しい。③勉強方法が身についていない（高校までは学校や塾に言われた通りやれば何とかなる）。④精神科的な問題
- 論理的な考察・根拠を示す能力が低い学生が増えたと感じる。知識の想起・解釈については特にここ数年で変化は無いと感じる。
- SNS上のトラブルを教員に相談に来る学生も少数ながらいる。この傾向はすべての学年にみられる。

- 抑うつ症状や気分障害といわれるような学生も増えている。
- 基礎医学の知識を有機的に用いて臨床推論を行う思考がなかなか定着せずに伸び悩む学生がいる。
- 学生支援の必要な学生には生活態度の問題、メンタルの問題、発達障害の問題など多様で、それぞれに専門家の協力をあおぐようにしている。
- 不正行為に関する意識の低さを感じる。医師のモラル・マナー・プロフェッショナリズムが求められるのが昨今の流れと考えるが、マナーの点で問題となる事や、出席等に関する不正行為が疑われるケースが出ているように感じる。
- 実習のグループ内での人間関係についても、教員は十分把握できていない。その為、実習に十分参加できていないこともある(所謂、仲間はずれ。本人に問題の有る場合もあると思いますが。)。そのようなことがないようにグループの人間関係を把握し、調整(調停)する必要があると思う。

臨床実習担当教員から

	【 国立大学 】	【 公立大学 】	【 私立大学 】
①学習意欲が希薄・無気力	5	1	5
②精神的な悩みを持っている・メンタルサポートが必要	5		4
③学生と教員や指導医との相互の意見交換が重要・個別指導	4		5
④自発的な学習ができていない・自主性が乏しい	5		3
⑤支援の内容を模索している・色々な課題がある	3	2	3
⑥学力不足・知識不足	4	1	2
⑦モラルの低下	5	1	1
⑧参加型臨床実習や学外実習が十分に行えない	6	1	
⑨十分な支援ができていない	5		1
⑩学力の二極化が顕著になっている	4		2
⑪医者になるという自覚が希薄	3		2
⑫学生の支援に必要な資源(教室、グラウンド、食事・休憩施設他)が不十分	4		1
⑬国家試験の見直しが必要			4
⑭学生数の増加に問題がある	3		1
⑮コミュニケーション能力の低下	3		1
⑯教員不足・人員不足	4		
⑰教員の負担が大きくなっている	1	1	1
⑱学外実習経費が増大し予算確保に苦慮している	3		
⑲真面目な学生が増えた・意欲的な学生が増加	1	1	1
⑳卒業時のパフォーマンスレベル上げるよう支援している	1		1
㉑指導者の標準化、情報共有には課題が残る	1		1
㉒教員のスキルアップ		1	1
㉓その他	3		3
回答記入校	38校	7校	25校

自由記載から

- 患者に対する社会的儀礼を失っている学生が増えてきている。コミュニケーション能力が低い学生が増えてきている。看護師等との意思の疎通に支障のある場合がある。身だしなみ(特に服装)に問題がある学生が増えてきた。積極的に学ぼうという姿勢がなく、受動的な学生が見受けられる。
- 臨床実習前までは問題のなかった生徒が、臨床実習が始まると抑うつ、適応障害などを発症し、実習を続けることが困難になる事例が増えている。特に発達障害が疑われる生徒には、頻繁に学習環境が変わる臨床実習や、参加型の実習形態が求める患者との接触そのものがストレスとなっているように見受けられる。

- 臨床実習の同一グループで回っている**学生間のトラブル**への対応が複雑化している印象です。
- 臨床実習期間中にメンタルの問題が表面化する学生が、各学年数名いる。
- 医療面接のトレーニングを受けているので自己紹介やインタビューの態度は概ね良好であるが、知識不足が目立つ。
- 臨床実習を無断で遅刻、欠席する学生が増加傾向にあり、その対策に苦慮している。
- **成績上位の学生と、下位の学生の知識の差**がかなりあることを実感します。
- 臨床実習に積極的な学生、そうでない学生と学生それぞれで実習に対する姿勢が異なる印象があります。興味のある診療科への関心はあるのですが、そうでない科への関心がない学生もいます。

まとめ

ストレート卒業率(80医学部)

(医学教育カリキュラムの現状2015より)

入学年度

- 平成16年度: 87.0%
- 平成17年度: 87.6%
- 平成18年度: 86.9%
- 平成19年度: 87.2%
- 平成20年度: 85.4%(定員増開始年度)
- 平成21年度: 84.2%(平成27年3月卒業者)

→ ストレート卒業率が漸減傾向にある。入学者の偏差値は高くなっているのに、ストレート卒業率は低下している。

環境の変化への対応

- 1年次では大学での学習という変化（高校や予備校での学習方法との違い）、2年次では膨大な基礎医学知識への対応、4年次では臨床実習前の共用試験（CBTとOSCE）への対応、そして臨床実習という学習環境の変化に対応しきれない学生が存在する。これが1年生、2年生、4年生での留年者の増加傾向と関連している可能性がある。
→ 初年次教育、学生への学習支援、入試など

初年次教育とは

- 「高等学校から大学への円滑な移行を図り、大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させるべく、主として大学新生を対象に作られた総合的教育プログラム。高等学校までに習得しておくべき基礎学力の補完を目的とする補習教育とは異なり、新生に最初に提供されることが強く意識されたもので、1970年代にアメリカで始められ、国際的には『First Year Experience (初年次体験)』と呼ばれている。

具体的内容としては、

1. (大学における学習スキルも含めた)学問的・知的能力の発達,
2. 人間関係の確立と維持,
3. アイデンティティの発達,
4. キャリアと人生設計,
5. 肉体的・精神的健康の保持,
6. 人生観の確立など,

大学における教育上の目標と学生の個人的目標の両者の実現を目指したものになっている。

中央教育審議会 学士課程教育の構築に向けて(答申)平成20年12月24日

(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf)

入学試験は医学部での学習のための能力を測っているのか？

- 高大接続で論じられている問題を、医学部でも考えていく必要がある。
 1. 中等後教育(高等学校)での教育改善
 2. 入学者選抜の方法(医学部に入り、医学教育を学び、医師になって社会貢献しようとする人を選ぶ)
 3. 大学教育の改善

高大接続システム改革会議「最終報告」平成28年3月31日

- これからの時代に向けた教育改革を進めるに当たり、身に付けるべき力として特に重視すべきは、(1)十分な知識・技能、(2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、そして(3)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度である。
- 「学力の3要素」の全てを一人一人の学習者が身に付け、予見の困難な時代に、多様な人々と学び、働きながら、主体的に人生を切り開いていく力を育てるものにならないといけない。このことは、今後、大学も含めた我が国の学校全体が、社会人や留学生も含めた多様な背景を持つ人々が集い、学ぶ場として発展していく上でも不可欠な課題である。

国際バカロレア (IB) の学習者像

1. Inquirers 探求する人
2. Thinkers 考える人
3. Knowledgeable 知識ある人
4. Communicators コミュニケーションができる人
5. Principled 信念のある人
6. Caring 思いやりのある人
7. Balanced バランスの取れた人
8. Open-minded 心開く人
9. Risk-takers 挑戦する人
10. Reflective 振り返りができる人

医師という職業を通じての社会貢献 という考え方

- 医学部での学習は、医師になるためのものであることは理解しているが、医師という職業を通じて自分が社会貢献や他者貢献するという意識が十分育っていない。

→ キャリア教育の問題(入学時からの問題でもある)

キャリア教育の重要性

- 1年生教育での「学習の仕方」(スタディー・スキル)という教育を再考する時期に来ている。また、1年生で行われている医学部での教養教育では、①自分が付く職業が社会でどのように役立つのか、②医学部で学んだ知識と技術をどのように使うべきかの判断をするときの知識、③自分の職業と社会の人々との関係を知り、職業職者としての職責と幸せを知ること、④それを知るために教養教育は専門教育と協働して、医学教育の一部としてカリキュラムに組み込まれることが望まれる。そのためには、医学生が入学当初から、自分のキャリアについて知り、考える機会を提供していくことが必要である。

今後の課題

- 入学者選抜
 - 初年次教育
 - キャリア教育
 - 学生支援
 - 多様な場での臨床実習教育
 - 社会との接点
 -
-